

文化庁日本語教育人材養成・研修カリキュラム等開発事業
事業報告書

事業区分：日本語教育人材の研修カリキュラム開発

研修の種類：④就労者に対する日本語教師【初任】研修

事業名：就労者に対する日本語教師【初任】研修カリキュラム開発事業

団体名：一般社団法人応用日本語教育協会

実施期間：平成31（2019）年4月23日～令和2（2020）年3月20日

令和2（2020）年5月28日～令和3（2021）年3月19日

令和3（2021）年6月7日～令和4（2022）年3月18日

目次

1. はじめに.....	3
2. 事業概要.....	4
2-1. 事業の名称.....	4
2-2. 事業の背景.....	4
2-3. 事業の目的.....	6
2-4. 事業の実施期間と内容.....	7
2-5. 事業内容の概要.....	7
2-6. 教育内容の検討.....	8
2-7. 教材の検討・開発.....	9
2-8. 養成・研修の実施.....	11
2-9. 事業全体の成果の評価.....	13
3. 教育課程の検討.....	15
3-1. カリキュラム検討委員会 実施報告.....	15
3-1-1. 事業の実施計画.....	15
3-1-2. 教育課程の編成.....	16
4. 研修カリキュラムの開発.....	18
4-1. 教材検討委員会 実施報告.....	18
4-2. 研修カリキュラム開発概要.....	19
4-2-1. 研修カリキュラムの目標.....	19
4-2-2. 研修カリキュラムのねらい.....	19
4-3. 本事業開発研修カリキュラム.....	20
4-3-1. 本事業開発研修カリキュラムの構成.....	20
4-3-2. eラーニング科目.....	22
4-3-3. eラーニング科目の特徴.....	23
4-3-4. eラーニング科目の進め方.....	24
4-3-5. オンライン参加型研修科目／自己研修課題.....	24
4-3-6. オンライン参加型研修科目／自己研修課題の特徴.....	25
4-3-7. オンライン参加型研修科目／自己研修課題の進め方.....	25
5. 養成・研修の実施.....	26
5-1. 受講者の募集と選考.....	26
5-2. 研修の事前準備.....	31
5-2-1. 学習管理システム「eden」の環境整備.....	31
5-2-2. オンライン参加型研修担当講師との事前打合せ.....	32
5-3. 研修の実施.....	33

5-3-1. 開講式／オリエンテーション	33
5-3-2. eラーニング研修	40
5-3-3. オンライン参加型研修／自己研修	47
5-4. 評価ツール	52
5-4-1. セルフチェックシート	52
5-4-2. 受講者アンケート	54
5-4-3. 研修記録	61
6. 事業全体の成果の評価	64
6-1. 事業評価委員会 実施報告	64
6-2. 研修のねらいの達成に関する評価	64
6-3. 研修内容に関する評価	67
6-4. 受講生の変容に関する評価	68
6-5. 今後の課題	69

1. はじめに

本事業は、『日本語教育人材の養成・研修の在り方について（報告）』（平成31年3月4日文化審議会国語分科会）の「就労者に対する日本語教師【初任】研修における教育内容」の普及を図るべく開発されたものである。

研修対象は、日本語教師として初任の者、或いは、日本語教師としては相応の経験を有しつつも就労者を指導する日本語教師としては初任の者である。そして60単位時間の研修を通して、就労者への日本語教育の前提となる知識、実践的スキル、態度について、獲得することを目指すというよりも、協働的活動を通して理解を深め、将来的な獲得に繋がる基本姿勢の形成を図ることを目論んだ。

具体的には、60単位時間の研修をeラーニング33単位時間とオンライン参加型研修22単位時間、自己研修5単位時間で構成し、国内、海外といった住居地に制約なく、現職者も参加しやすい研修とした。参加者は学習管理システムであるLMSにアップされているeラーニング教材動画を視聴し、理解度チェックテストを受験して理解を深め、オンライン科目に付随する自己研修では、個人またはグループで課題に取り組み、Zoomを使用した双方向のオンライン参加型研修に臨む形で展開された。研修は2021年8月初旬から12月中旬までのほぼ4か月で展開された。研修の最初と最後にはセルフチェックシートで研修の前後の成長が把握できるよう配慮した。また、参加者が対面で顔を合わせない研修であるだけに、研修の初期に課外の「おしゃべり会」を設けて相互交流を促し、研修途中に随時受講状況のアンケートを実施し、参加者同士が励まし合う機会を設けたり、事務局からも参加者に対して声掛けを行ったりして、参加者がモチベーションを持続させ、学びが深められるよう配慮した。

本事業の実施に当たっては、カリキュラム検討委員会、教材検討委員会、研修実施委員会、研修事業評価委員会の4つの委員会を組織した。委員には、日本語教育の有識者、ビジネス日本語教育に関する有識者、ビジネス日本語教育の実践経験者が名を連ね、研修を主催する一般社団法人応用日本語教育協会がビジネス日本語テストを行い、関連教材を開発してきた経験の蓄積と豊富な人的リソースを十全に活用し、実践的且つ効果的な研修プログラムの実現を目指した。本報告書において各委員会の活動内容と研修実施状況、今後の課題等を詳らかにする。

令和4年3月
一般社団法人応用日本語教育協会

2. 事業概要

2-1. 事業の名称

日本語教育人材養成・研修カリキュラム等開発事業

「就労者に対する日本語教師【初任】研修カリキュラム開発事業」

2-2. 事業の背景

経済のグローバル化が進展する中、日本企業では国際競争力を高めるべく多様な人材を活用するダイバーシティ経営の動きが活発化している。昨今特に国内の少子高齢化による深刻な人材不足という事情もあり、企業による外国人の雇用が増加している。日本貿易振興機構の「2017年度日本企業の海外事業展開に関するアンケート調査」によると、アンケートに回答した 3,195 社の企業の内、国内で外国人を雇用している企業の割合はほぼ半数（45.4%）を占めており、今後採用を検討したいとした企業も 20.8%あった。

政府も「日本再興戦略-JAPAN is BACK-(2013年)」から一貫して高度外国人材の活用を掲げており、「未来投資戦略 2018」においても、「優秀な外国人留学生の国内就職率の向上に向け、外国人学生の呼び込みから就職に至るまで一貫した対応を行うとともに、留学生と産業界双方のニーズを踏まえた効果的なマッチングを図る」(「未来投資戦略 2018」, p.112)としている。

こうした流れの中、国内の外国人就労者数は 2008 年におよそ 49 万人だったものが 2016 年にはおよそ 108 万人と初めて 100 万人を超え、その後も毎年 20 万人のペースで増加している。2020 年以降は新型コロナウイルス感染症の影響で増加率の低下がみられるものの、深刻な人手不足を外国人就労者で補おうとする傾向は今後も変わらず、国際協力機構 JICA のシンクタンクである緒方貞子平和開発研究所の推計によると、企業の設備投資による業務効率化が最も進展した場合であっても、2030 年時点で必要な外国人就労者は、2021 年時点のおよそ 172 万人の倍以上となる 419 万人と試算されており、将来的にも官民挙げて外国人材の雇用に対して積極的にならざるを得ない状況下にあるといえる。

日本語教育の現場で活躍する教員の養成については、昭和 60（1985）年に当時の文部省の日本語教育施策の推進に関する調査研究会が取り纏めた「標準的な教育内容」から平成 12（2000）年文化庁の日本語教員の養成に関する調査研究協力者会議において『日本語教育のための教員養成について』が取り纏められ、日本語教員養成の新たな教育内容（以下、「平成 12 年の新たな教育内容」）が示される過程で、入管法改正に伴う日系人の増加を始め、日本語学習者の多様化が進み、それに対応する日本語教育内容と教授法の改善が期待された。そして、情報メディアの活用や、社会言語学、心理学、コミュニケーション学等の知見の応用と、従来の枠組みに囚われない多様な教育課程の編成が要請されるようになった。「平成

12年の新たな教育内容」では、養成する日本語教師が活躍する日本語教育の現場に応じて日本語教員養成の教育内容も選択可能とされ、多様な教育課程の編成が期待されることとなった。

そうした中で、新型コロナウイルス感染症の感染拡大前の2018年9月時点において、法務省告示の日本語教育機関（以下、法務省告示校）数は730を数え、10年前の倍近い数字となって、日本語教師の需要は拡大傾向にあり、日本語教師の人手不足は深刻化していた。法務省告示校の日本語学習者は主に日本の高等教育機関への進学希望者だが、外国人材への需要の拡大は、外国人材を指導する日本語教師の需要を喚起するものの、人手不足でその需要に応え切れていないという現状があった。

就労希望者に対する日本語教育は、就活のための内容も含み、業種を問わない一般性が高まるのに対し、現職の外国人就労者に対する日本語教育については、就労現場に近接した内容が求められる。それは業種によっても、また、社内コミュニケーションに重きを置くのか、社外コミュニケーションを中心に据えるのか、によっても内容が異なる。ところが、外国人材の採用に際しては、専ら JLPT 日本語能力試験の成績によって日本語能力が判断されているケースが多く、採用側にはビジネス日本語能力の評価やビジネス日本語コミュニケーション能力の育成の必要性が十分認識されているとは言い難い。こうした点については、採用側を啓蒙することが今なお必要となっている。

外国人就労希望者や現職の外国人就労者を対象とした日本語教育を担当する教師の中には、420時間以上の日本語教師養成講座において日本語教育を学んだビジネス経験者もいるが、一言で「ビジネス」と言っても分野が多岐にわたり、対象とする外国人材が就労する分野に関わった経験がない場合もある。そうした場合も、担当する教師は、自身のビジネス経験に基づいて指導内容を判断せざるを得ないのが実情である。そもそも、日本語教師の養成課程においては、通常、国内外の日本語教育の現場に立てる日本語教師としての一般的な教授技術能力の養成が志向されることが多く、就労者への日本語教育について、講座の中で取り上げられることはあっても、その為に養成コースが組まれるケースは限られている。

こうしたビジネス経験者が担当教師として存在しない場合、一般企業等での就労経験がなく、就労者に対する日本語教育に対する知識や経験に欠ける日本語教師がビジネス日本語教育を担当するケースもあり、十分な教育効果が期待できないケースも存在する。教育現場での研修は、各教育機関での OJT によるケースが多く、指導法や教材の活用法に主な比重が置かれており、体系立てられたカリキュラムの下で、理論と実践を網羅した研修が行われる体制が整っているとは言い難いケースもあり、外国人就労希望者や現職の外国人就労者を対象とした日本語教育を担当する教師については、今後益々需要が見込まれながら、その養成、研修の体制には不備があると言わざるを得ない。

そうした中で、一般社団法人応用日本語教育協会は、2007年より STBJ 標準ビジネス日本語テストを実施しており、これまでに53回を数えている。このテストは、日本企業、日系企業への就職希望者や新人社員を対象としており、主に社内コミュニケーションに重点

を置いている。テストの関連教材として、ビジネス日本語の総合教材を中国でも出版しており、外国人材が日本企業、日系企業で活躍するためにどのようなコミュニケーション能力が必要かについても検討を重ねてきている。こうした実績も踏まえて、就労者に対する日本語教育に携わる人材の研修を行うことが可能であることから、本事業を展開することとなったものである。

2-3. 事業の目的

日本語教師【養成】を修了した者で、新たに就労者に対する日本語教育に携わる者を対象に、文化審議会国語分科会による「日本語教育人材の養成・研修の在り方について（報告）改定版」に基づき、以下の「知識」、「技能」、そして「態度」を有する人材の育成が可能となる研修モデルを構築することを本事業の目的とする。

「知識」

【就労者への日本語教育の前提となる知識】

- 外国人材が日本で就労する上で必要となる在留資格、法制度と諸手続きに関する基本知識
- 外国人材に対するキャリア支援に関する基本的知識
- 日本での就労に必要とされる日本的なビジネス常識に関する知識
- 外国人材が日本で遭遇する可能性のある異文化摩擦や周囲の日本人とのコミュニケーションを活性化させるための知識

【就労者への日本語教育に関する実践的知識】

- 外国人材のビジネスコミュニケーション能力を向上させるために効果的な日本語教育プログラムやリソース、ツールについての知識

「技能」

【就労者への日本語教育に関する実践的技能】

- 外国人材の日本語能力を把握した上で、限られた期間内で目標とする水準に到達させるための効果的な指導計画が立案できる能力
- 外国人材が就労に必要なビジネスコミュニケーション能力を習得するために、適切なリソースやツールを駆使し、効果的に指導する教授技術能力

【成長する日本語教師たる技能】

- 指導計画に基づき実践した授業や教育活動を分析的に振り返り、改善と新たな実践のための検討ができる能力
- 日本語学習の成果や課題を外国人材やその職場関係者と共有し、より具体的な改善に繋げる為の評価ができる能力

「態度」

【教育者たる態度】

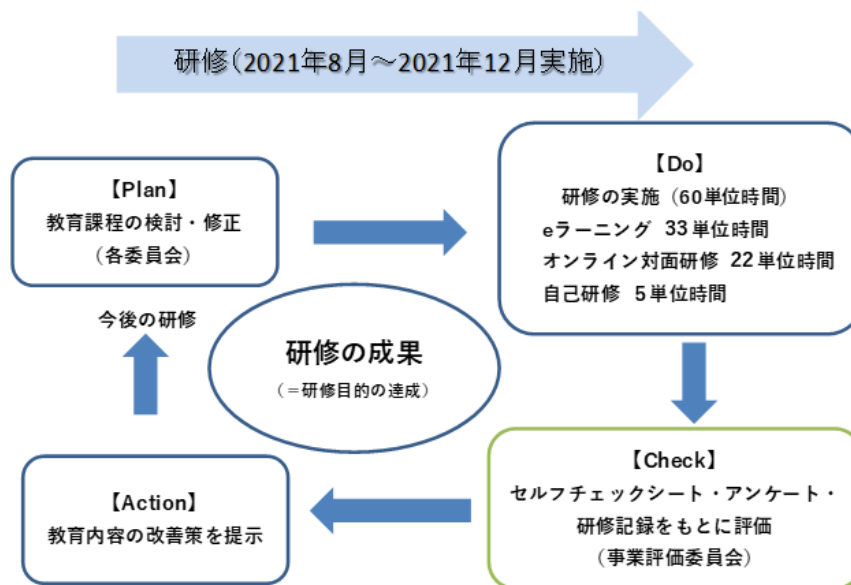
- 外国人材とその就労先の課題、目的、目標を理解し、教育実践によりよく反映させようとする態度
- 日本語教育を通して、外国人材のキャリアにプラスとなる支援を行いつつ、就労の基盤となる分析力、論理的思考力、自律的学習姿勢を育成しようとする態度
- 外国人材を取り巻く社会環境に関心を寄せつつ、外国人材のキャリアに敬意を払い、より良い自己実現が果たせるよう支援に努める態度
- 外国人材の目標達成までの日本語学習計画を粘り強く伝え、その達成を励ます態度
- 外国人材とその職場関係者との相互理解を促そうとする態度

2-4. 事業の実施期間と内容

第1期	平成31(2019)年4月23日～令和2(2020)年3月20日 教育課程の検討、教材の検討・開発
第2期	令和2(2020)年5月28日～令和3(2021)年3月19日 教材の検討・開発
第3期	令和3(2021)年6月7日～令和4(2022)年3月18日 教材の検討・開発、養成・研修の実施、事業全体の成果の評価

2-5. 事業内容の概要

本事業は、研修カリキュラムの検討、研修教材の検討・開発、研修の実施、研修事業の評価の4項目から成り、PDCAサイクルを用いて、より質の高い研修カリキュラム開発を目指した。



- 1) 日本語教師養成と様々な教師研修等に長年携わってきたメンバー、技能実習生の受入れ現場に明るい有識者、ビジネス日本語教育に関する有識者、ビジネス日本語教育の実践経験者からなる研修カリキュラム検討委員会において、効率的且つ効果的な教育課程の編成を検討した。
- 2) 研修教材検討委員会において、ビジネス日本語教育に関する有識者や就労者に対する日本語指導及び日本語教師養成に十分な経験を有する日本語教師を中心に、教材及び教材執筆者を検討した。その上で各科目に最適な有識者が教材の執筆・作成を行い、受講者が主体的且つ自律的に学べる e ラーニング教材の開発を行った。
- 3) 研修教材検討委員会において、ビジネス日本語教育の実践経験者及び日本語教師養成に関して十分な経験を有する日本語教師と有識者が共に、対面のオンライン参加型研修・自己研修（実践・演習科目）の内容および教材の検討・開発を行った。
- 4) 就労者に対する日本語指導及び日本語教師養成に関して十分な経験を有する日本語教師を中心として対面型研修を実施した。
- 5) 60 単位時間の研修実施後、受講者のアンケート、研修担当者の実施記録等をもとに研修事業全体を研修事業評価委員会が評価し、今後の研修の普及に向けて、より質の高い研修カリキュラムへの改善を目指した。

2-6. 教育内容の検討

1) 委員会の設置

「就労者に対する日本語教師【初任】研修カリキュラム検討委員会」を設置し、研修カリキュラムの検討を行った。

2) 実施期間

平成 31 (2019) 年 4 月 23 日～令和元 (2019) 年 7 月 31 日

3) 委員会構成員

(平成 31 年 4 月 23 日現在)

委員長	吉岡正毅	一般社団法人応用日本語教育協会	代表理事
助言者	高見澤孟	一般社団法人応用日本語教育協会	会長
委員	伊東祐郎	国際教養大学専門職大学院	教授
委員	春原憲一郎	京都日本語学校	校長
委員	永井早希子	東京ギャラクシー日本語学校	校長
委員	道木容子	東京ギャラクシー日本語学校	教務主任
委員	小山紀子	千駄ヶ谷日本語教育研究所	副所長
委員	吉川正則	千駄ヶ谷日本語教育研究所附属日本語学校	校長
委員	新山忠和	一般社団法人応用日本語教育協会	事務局長
委員	内田 美和子	一般社団法人応用日本語教育協会	事務局

4) 具体的な検討方法

研修カリキュラム検討は PDCA サイクルの【Plan】にあたる。本事業の目的とする人材の育成をする上で要となる検討であり、研修内容だけでなく実現可能性を担保するためにも、十分な時間をかけて検討を行った。

研修カリキュラム検討委員会の現場経験の豊富な中核メンバーにおいて研修内容の下案を作成し、その後、専門的な知識を有する委員と共にカリキュラム検討委員会で効率的且つ効果的な研修カリキュラムの検討を行った。

2-7. 教材の検討・開発

1) 委員会の設置

「就労者に対する日本語教師【初任】研修教材検討委員会」を設置し、研修で使用する教材の検討・開発に取り組んだ。

2) 実施期間

令和元 (2019) 年 8 月 1 日～令和 2 (2020) 年 3 月 20 日

令和 2 (2020) 年 5 月 20 日～令和 3 (2021) 年 3 月 19 日

令和 3 (2021) 年 6 月 7 日～令和 3 (2021) 年 7 月 31 日

3) 委員会等構成員

(令和 3 年 1 月 1 日現在)

委員長 原稿執筆者	伊東祐郎	国際教養大学専門職大学院	教授
委員 原稿執筆者	高見澤孟	一般社団法人応用日本語教育協会	会長
委員 原稿執筆者	春原憲一郎	京都日本語学校	校長
委員 原稿執筆者	道木容子	東京ギャラクシー日本語学校	教務主任
委員 原稿執筆者	小山紀子	千駄ヶ谷日本語教育研究所	副所長
委員 原稿執筆者	吉川正則	千駄ヶ谷日本語教育研究所附属日本語学校	校長
委員 原稿執筆者	新山忠和	一般社団法人応用日本語教育協会	事務局長
委員	内田美和子	一般社団法人応用日本語教育協会	事務局
委員	谷貝あいり	一般社団法人応用日本語教育協会	事務局
原稿執筆者	堀井恵子	武蔵野大学	名誉教授
原稿執筆者	丹野勲	神奈川大学	教授
原稿執筆者	林千賀	城西国際大学	教授
教材内講演者	小田金欣也	千駄ヶ谷日本語教育研究所附属日本語学校	就職支援室長
教材内講演者	竹内幸一	株式会社グローバルパワー	代表取締役
教材内講演者	小松輝博	アデコ株式会社	OS&S 事業本部 マネージャー CDA
教材内講演者	袁文婷	アデコ株式会社	外国人材キャ リア開発室
教材内講演者	齋木奈緒子	外資系企業／日本語学校	社員／非常勤 講師

教材内講演者	手塚都子	介護老人福祉施設	副所長
教材内講演者	中村和弘	元日本語学校	教務主任
教材内講演者	湯澤拓夫	ファミリーマート	店長
教材内講演者	田中貴規	一般社団法人日本ワーキング・ホリデー協会	
教材内講演者	金美花	個人事業主	
教材内講演者	林暁華	個人事業主	

4) 具体的な教材の検討・開発方法

研修カリキュラム検討と同様に PDCA サイクルの【Plan】にあたる教材の検討・開発であるが、より効果的に人材を育成する研修を実施するために、教材検討委員会は原稿執筆者、オンライン参加型研修担当講師と協働して、eラーニングおよびオンライン参加型研修で使用する教材の検討・開発に取り組んだ。

- ① 研修カリキュラム検討委員会において検討された各科目の内容や時間配分に沿って、eラーニングおよびオンライン参加型研修の教材検討を行った。まず、現場経験の豊富な中核メンバーにおいて研修内容の下案を作成し、その後、専門的な知識を有する委員と共に研修教材検討委員会において各科目の到達目標を明確にし、原稿執筆者の検討と選定を行った。
- ② ①での検討に基づき選定した原稿執筆者に対して原稿執筆の依頼を行い、原稿を受領した。また、オンライン参加型研修で使用する教材についても研修担当講師に作成を依頼した。
- ③ ②にて受領した原稿を基に、eラーニング教材の作成を進めた。
- ④ 作成されたeラーニング教材の内容について、その適否を検討し、必要に応じた修正を行った。

2-8. 養成・研修の実施

1) 実施期間

令和3(2021)年8月1日～12月31日

【研修実施期間】令和3(2021)年8月7日～12月18日

2) 研修の目標

「日本語教師【養成】」を修了した者で、新たに就労者に対する日本語教育に携わる者を対象に、就労者に対する日本語教育の「知識」、「技能」、そして教育者たる

「態度」を有する人材の育成を目標とした。

また、就労者の置かれた立場や勤務先の状況等も理解し配慮でき、コミュニケーション能力の向上に資する自律的な成長力を有する日本語教師の育成を目標とした。

その目標を達成すべく、現職者である受講生が自身の生活スタイルに合わせて任意の時間およびペースで学習できる「eラーニング」と「オンライン参加型研修」を通して、主体的且つ協働的に学べるよう工夫した。

3) 研修担当

① eラーニング科目

(令和3年1月1日現在)

伊東祐郎	国際教養大学専門職大学院 グローバル・コミュニケーション実践研究科 日本語教育実践領域代表	日本の外国人材受入れ施策 コースデザイン演習—概要
小山紀子	千駄ヶ谷日本語教育研究所 副所長	就労者に対する日本語教育（就労のための日本語教育の多様性）
高見澤孟	元米国国務省日本語研修所、 元昭和女子大学大学院	就労者の多様性 職場におけるコミュニケーション と日本語教育
丹野勲	神奈川大学 経営学部国際経営学科 教授	日本と海外の労働に関する制度の 違い
新山忠和	千駄ヶ谷日本語学校 副校長	外国人材とメンタルヘルスケア 就労者に対する日本語教育（就労 に関わる日本語能力の要件） キャリア支援と日本語教育
林千賀	城西国際大学 国際人文学部国際交 流学科 教授	職場コミュニケーションに関する 言語間対照 就労者の異文化受容・適応
春原憲一郎	京都日本語学校 校長	人の移動とダイバーシティ
堀井恵子	武蔵野大学 名誉教授	学習動機と就労現場における学習 者心理
道木容子	東京ギャラクシー日本語学校 教務 主任	各種指導法—ビジネス日本語の具 体的指導法
吉川正則	千駄ヶ谷日本語教育研究所附属日本 語学校 校長	就労のための日本語教育教材・教 具のリソース

② オンライン参加型研修／自己研修

(令和3年1月1日現在)

伊東祐郎	国際教養大学専門職大学院 グローバル・コミュニケーション実践研究科 日本語教育実践領域代表	就労者の多様性 コースデザイン演習—概要
小田金欣也	千駄ヶ谷日本語教育研究所附属日本語学校 就職支援室長	キャリア支援と日本語教育
小山紀子	千駄ヶ谷日本語教育研究所 副所長	コースデザイン演習 d 異文化調整能力
新山忠和	千駄ヶ谷日本語学校 副校長	コースデザイン演習 a コースデザイン演習 b
道木容子	東京ギャラクシー日本語学校 教務主任	各種指導法—ビジネス日本語指導法 (演習)
吉川正則	千駄ヶ谷日本語教育研究所附属日本語学校 校長	コースデザイン演習 c 評価・報告—評価及びフィードバックの方法、自律学習 評価・報告—分析的な振り返り、内省化の強化

2-9. 事業全体の成果の評価

1) 委員会の設置

「就労者に対する日本語教師【初任】研修事業評価委員会」を設置し、本事業全体の評価を行った。

2) 実施期間

令和4(2022)年1月1日～令和4(2022)年3月18日

3) 委員会構成員

(令和4年1月1日現在)

委員長	西原鈴子	特定非営利活動法人日本語教育研究所	理事
委員	伊東祐郎	国際教養大学専門職大学院	教授
委員	齋藤ひろみ	東京学芸大学教育学部	教授
委員	新井永範	赤門会日本語学校	マーケティング部部長

委員	吉川正則	千駄ヶ谷日本語教育研究所附属日本語学校	校長
委員	早川聡子	学校法人吉岡教育学園	教材開発委員長
委員	新山忠和	一般社団法人応用日本語教育協会	事務局長
委員	内田美和子	一般社団法人応用日本語教育協会	事務局
委員	坂谷由香	一般社団法人応用日本語教育協会	事務局

4) 評価の概要

カリキュラム等の検討や教材開発に関わっていない委員を中心とした研修事業評価委員会において行い、より客観的且つ公正な事業評価となるよう努めた。

本事業の科目は、「日本語教育人材の養成・研修の在り方について（報告）改定版」に記載のある資質と能力を育むことを前提に設計されている。各科目に該当する資質と能力が設定されているので、適切な研修内容であったのか、研修内容の評価のほか、研修事業全体の運営方法（全てオンラインでの実施）等が適切であったのか、改善できることはないか、今後の研修事業をより良いものへと進化させるために評価を受けた。

3. 教育課程の検討

就労者に対する日本語教師【初任】研修カリキュラム検討委員会（以下、カリキュラム検討委員会）を開催し、本事業の実施計画と教育課程の編成について検討し決定した。

カリキュラム検討委員会

- ・第1回 2019年5月23日（中核メンバー）
- ・第2回 2019年5月27日
- ・第3回 2019年6月12日（中核メンバー）
- ・第4回 2019年6月24日

3-1. カリキュラム検討委員会 実施報告

3-1-1. 事業の実施計画

実施計画（3か年全体ならびに2019年度）の検討にあたっては、後述する（a）教育課程の検討、（b）教材の検討・開発、（c）養成・研修の実施、（e）事業全体の成果の評価について、下記のように計画を立てた。

●事業全体の実施計画

実施期間	令和元年度				令和2年度				令和3年度			
	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月
(a)教育課程の検討	➡											
(b)教材の検討・開発	➡											
(c)養成・研修の実施									➡			
(e)事業全体の成果の評価											➡	

●2019年度の計画

実施期間	2019年度											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
(a)教育課程の検討	➡											
(b)教材の検討・開発				➡								
(c)養成・研修の実施												
(e)事業全体の成果の評価												

(a)教育課程の検討 【カリキュラム検討委員会】

現場経験が豊富なメンバーと専門的知識を有する委員からなるカリキュラム検討委員会において、効率的且つ効果的な教育課程の編成を検討した。

(b)教材の検討・開発 【教材検討委員会】

- 1) 現場経験が豊富なメンバーと専門的知識を有する委員からなるカリキュラム検討委員会において、効率的且つ効果的な教育課程の編成を検討した。
- 2) 教材検討委員会において、ビジネス日本語教育の実践経験者を中心に教材作成を行い、有識者が監修を行うことで、受講者が主体的且つ自律的に学べる e ラーニング教材を開発した。
- 3) 教材検討委員会において、ビジネス日本語教育の実践経験が豊富な日本語教師と技能実習生の受入れ現場に明るい有識者、ビジネス日本語教育に関する有識者が共に検討して、オンライン参加型研修（実践・演習科目）教材の開発を行った。

(c) 養成・研修の実施

ビジネス日本語教育の実践経験が豊富な日本語教師がオンライン参加型研修を担当した。

(e) 事業全体の成果の評価 【事業評価委員会】

より質の高い研修カリキュラムとすべく、事業全体の評価を行った。

3-1-2. 教育課程の編成

研修効果を考えると、集合して対面で行なうのが望ましいとはいえ、コロナ禍であり、研修受講者が各地で勤務する現職者であることから、現実的には難しいため、「現職者が受講しやすい研修」を目指す、研修受講者が時間を有効に主体的に使って受ける研修にするという、この事業の特徴から、e ラーニングとオンライン参加型研修を併用するという方向性を改めて確認した。効果的な研修にするために、e ラーニングとオンライン参加型研修のバランスが肝要であることから、e ラーニング、オンライン参加型研修それぞれに適切な科目を決定した。

カテゴリー	総単位 時間数	e ラーニング	オンライン 参加型研修	自己研修
(1)外国人材の受入れに関する現状と課題	9	8	1	
(2)就労者に対する日本語教育	12	11	1	
(3)就労現場における異文化受容・適応	6	6		
(4)就労者に対する日本語教育プログラ	18	2	12	4

ムのコースデザイン				
(5)就労者に対する日本語教育の指導法	10	6	3	1
(6)就労者に対する日本語教育の評価	5		5	
*1 単位時間:45 分以上	60	33	27	

また、オンライン参加型研修の科目内容、「演習」の教壇実習について議論した。16名の教壇実習を効果的に行うために、就労者に対するニーズ分析、レディネス分析に基づくコースデザイン、模擬授業の組み合わせやグループを組んでの教壇実習の効果的展開などについても検討した。

4. 研修カリキュラムの開発

就労者に対する日本語教師【初任】研修教材検討委員会（以下、教材検討委員会）を開催し、原稿執筆者、オンライン参加型研修担当講師と協働して、eラーニングおよびオンライン参加型研修で使用する教材の検討・開発に取り組んだ。

教材検討委員会

- ・第1回 2019年7月29日（中核メンバー）
- ・第2回 2019年8月8日
- ・第3回 2020年12月18日（中核メンバー）
- ・第4回 2021年7月27日

4-1. 教材検討委員会 実施報告

より効果的に人材を育成する研修を実施するために、教材検討委員会は原稿執筆者と協働し、下記の通りeラーニング教材の検討・開発に取り組んだ。

- 1) 『日本語教育人材の養成・研修の在り方について（報告）改定版』文化審議会国語分科会（平成31年3月4日）表5「就労者に対する日本語教師【初任】に求められる資質・能力」を確認した。
- 2) 『日本語教育人材の養成・研修の在り方について（報告）改定版』文化審議会国語分科会（平成31年3月4日）表32「教育課程編成の目安：就労者に対する日本語教師初任研修」に示された教育内容に沿って、現場経験の豊富な中核メンバーにおいて研修内容の下案を作成し、その後、専門的な知識を有する委員と共に各科目の到達目標を明確にした。
- 3) 現職者が働きながら効果的・効率的に受講できるよう、eラーニングと対面研修を併用することを改めて確認した。
- 4) 対面研修に関しては、昨今の新型コロナウイルスの状況を鑑み、安心かつ継続的に受講できるよう当初予定していた集合型のスクーリング形式ではなく、オンライン参加型研修・自己研修で行うことが決定した。
- 5) eラーニングとオンライン参加型研修に最適な科目を決定し、原稿執筆者と対面研修の講師の検討・選定を行い、依頼した。

4-2. 研修カリキュラム開発概要

4-2-1. 研修カリキュラムの目標

- 1) 就労者に対する日本語教育の「知識」、「技能」、そして教育者たる「態度」を有する人材の育成
- 2) 勤務先などの要望等を理解して、就労者のサポートができる日本語教師の育成

4-2-2. 研修カリキュラムのねらい

日本語教師として初任の者、或いは、日本語教師としては相応の経験を有しつつも就労者を指導する日本語教師としては初任の者を対象として、就労者への日本語教育の前提となる知識、実践的スキル、態度について、60 単位時間という限られた時間の研修を通して獲得することを目指すというよりも、協働的活動も通して理解を深め、将来的な獲得に繋がる基本姿勢の形成を図ることを目論んだ。

具体的には、60 単位時間の研修を e ラーニング 33 単位時間とオンライン参加型研修 22 単位時間、自己研修 5 単位時間で構成させたが、本研修には主に 3 つの狙いがある。

1) 現職者がより受講しやすい研修

本研修においては、受講者がどこかに集合して対面で受講する形式は採用せず、下記の 4 タイプの科目構成とした。

- ・動画を視聴する e ラーニングのみで完結する科目
- ・オンラインによる同時双方向の対面研修のみで完結する科目
- ・e ラーニングと連動してオンラインによる同時双方向の対面研修が開講される科目
- ・e ラーニングとオンラインによる同時双方向の対面研修に加えて、自己研修課題が課される科目

4 つのタイプの科目構成とすることで、現職者が仕事と両立しながら、効率的かつ効果的に、そしてコロナ禍においても安全に受講できる研修とした。

対面研修をオンラインで実施することで、感染症等に対しても安心、継続して受講できる環境を提供した他、国内外を問わず、様々な地域に暮らす方々の受講を可能なものとした。

2) e ラーニング教材の特性を十全に活かした研修

外国人就労者の就労現場は極めて多様である。そこで、実際の就労者や外国人材を雇

用した経験者、人材紹介会社の関係者等のゲストスピーカーへのインタビューを e ラーニングの動画教材に盛り込み、日本企業文化、外国人社員と日本人社員との意志疎通の実態、職場トラブルへの対応等の現実的ケーススタディを語ってもらい、実践的な教材を提供すべく配慮した。

3) 主体的・協働的に学ぶ研修

日本語教育においては学習者の自律的学習（学習者オートノミー）を支援する意義が語られるが、それを支援する日本語教師自身にも自律性が求められる。

本研修では 33 単位時間の e ラーニング科目を設け、専門家による各科目の動画教材による講義を受講し、各科目の理解度確認テストを受けることで、受講者が主体的且つ自律的に受講を継続できる研修とした。

5 単位時間の自己研修を伴う 22 単位時間のオンライン参加型研修では、個人やグループ単位で課される課題について、他の受講生と協働して取り組むグループワークが組み込まれており、対面で接することがなくとも、他の受講生と協働的に学ぶ機会が多く設けられており、教育現場ではチームティーチングで指導に当たることが多いことから、連携、協力しようとする態度を育むことも意識した。

4) コースデザインから授業実践とその振り返りまでを学び、今後の成長に繋げる研修

外国人就労者を指導する現場では、少人数の多様な就労者を対象に小規模のグループ指導や個別指導を展開するケースが多く、日本語教師自身が学習者のニーズやレディネス分析を行い、コースデザイン、カリキュラムデザインをした上で授業実践するケースが少なくない。そして多忙に流され、日々の授業を終えると次の授業の準備に取り掛かり、内省活動が充分になされず、徒に時を過ごすケースも少なくない。

そこで本研修では、e ラーニングとオンライン参加型研修で外国人就労者の多様性とコースデザインの概要、各種指導法について学んだ上で、現実の外国人就労者を対象にニーズとレディネスの分析を行い、コースデザイン演習を行った上で実際にオンラインでの授業実践を行って、その後の振り返りに繋げるという一連の活動を盛り込み、今後の成長に繋げる実践的研修とした。

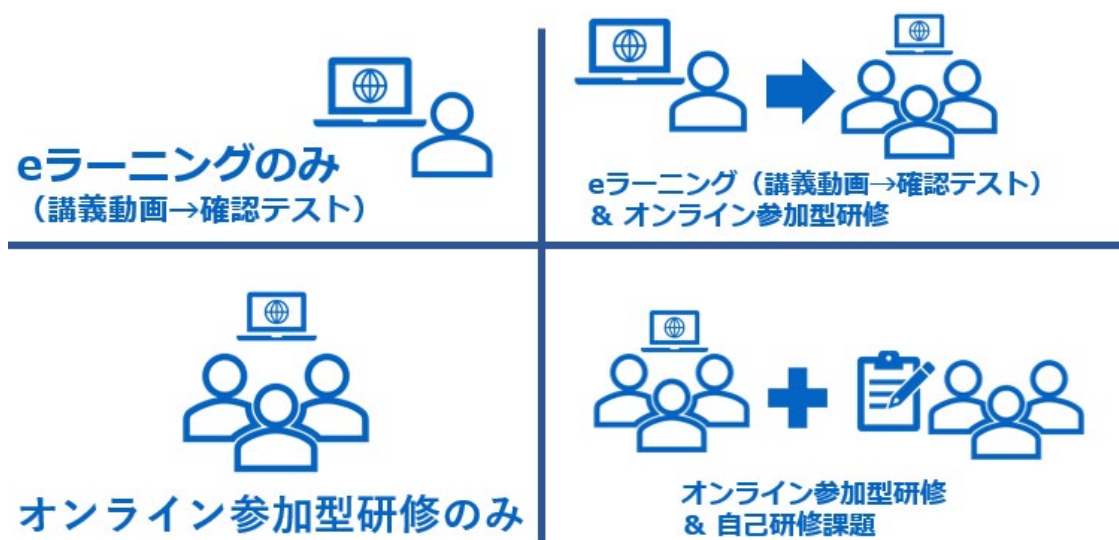
4-3. 本事業開発研修カリキュラム

4-3-1. 本事業開発研修カリキュラムの構成

本研修は 60 単位時間（1 単位時間＝45 分）で、『日本語教育人材の養成・研修の在り方について（報告）改定版』文化審議会国語分科会（平成 31 年 3 月 4 日）表 32「教育課程編成の目安：就労者に対する日本語教師初任研修」に示された教育内容に沿ったものとなって

おり、科目以下の4タイプによって構成されている。

- ・ 動画を視聴するeラーニングのみで完結する科目
- ・ オンライン参加型研修のみで完結する科目
- ・ eラーニングと連動してオンライン参加型研修が開講される科目
- ・ eラーニングとオンライン参加型研修に加えて、自己研修課題が課される科目



カテゴリー	教育内容*	科目名	eラーニング 単位数	対面研修 単位数	自己研修 単位数
外国人材の受入れに関する現状と課題	①	人の移動とダイバーシティ	2		
	②	日本の外国人材受入れ施策	2		
	③	日本と海外の労働に関する制度の違い	2		
	③	外国人材とメンタルヘルスケア	1		
	⑤	就労者の多様性	1	1	
就労者に対する日本語教育	④	就労者に対する日本語教育 (就労のための日本語教育の多様性)	4		
	④	就労者に対する日本語教育 (就労に関わる日本語能力の要件)	2		
	⑥	職場におけるコミュニケーションと日本語教育	3		
	⑦	キャリア支援と日本語教育	2	1	

就労現場における異文化受容・適応	⑧	就労者の異文化受容・適応	1			
	⑨	学習動機と就労現場における学習者心理	4			
	⑬	職場コミュニケーションに関する言語間対照	1			
就労者に対する日本語教育プログラムのコースデザイン	⑩	コースデザイン演習—概要	2			
	⑩	コースデザイン演習—概要		2		
	⑩	コースデザイン演習 a		1	2	
	⑩	コースデザイン演習 b		3	2	
	⑩	コースデザイン演習 c		3		
	⑩	コースデザイン演習 d		3		
就労者に対する日本語教育の指導法	⑪	各種指導法—ビジネス日本語の具体的指導法	4			
	⑪	各種指導法—ビジネス日本語指導法（演習）		3	1	
	⑭	就労のための日本語教育教材・教具のリソース	2			
就労者に対する日本語評価	⑫	評価・報告—評価及びフィードバックの方法、自律学習		3		
	⑫	評価・報告—分析的な振り返り、内省化の強化				
	⑮	異文化調整能力		2		
			(1 単位時間 = 45 分)	33	22	5

*教育内容の ①～⑮は、『日本語教育人材の養成・研修の在り方について（報告）改定版』文化審議会国語分科会（平成 31 年 3 月 4 日）表 16「就労者に対する日本語教師【初任】研修における教育内容」記載の教育内容による。

4-3-2. e ラーニング科目

e ラーニング科目は学習管理システム「eden」を用いて行った。

教育内容*	e ラーニング研修 科目名	単位数	担当講師名 (敬称略)	所属機関／役職名等 (2021 年 1 月時点)
①	人の移動とダイバーシティ	2	春原憲一郎	京都日本語学校 校長
②	日本の外国人材受入れ施策	2	伊東祐郎	国際教養大学専門職大学院 グローバル・コミュニケーション実践研究科 日本語教育実践領域代表
③	日本と海外の労働に関する制度の違い	2	丹野勲	神奈川大学 経営学部国際経営学科教授
③	外国人材とメンタルヘルスケア	1	新山忠和	千駄ヶ谷日本語学校 副校長

⑤	就労者の多様性	1	高見澤孟	元米国国務省日本語研修所、 元昭和女子大学大学院
④	就労者に対する日本語教育（就労のための日本語教育の多様性）	4	小山紀子	千駄ヶ谷日本語教育研究所 副 所長
④	就労者に対する日本語教育（就労に関わる日本語能力の要件）	2	新山忠和	千駄ヶ谷日本語学校 副校長
⑥	職場におけるコミュニケーションと日本語教育	3	高見澤孟	元米国国務省日本語研修所、 元昭和女子大学大学院
⑦	キャリア支援と日本語教育	2	新山忠和	千駄ヶ谷日本語学校 副校長
⑧	就労者の異文化受容・適応	1	林千賀	城西国際大学 国際人文学部国 際交流学科 教授
⑨	学習動機と就労現場における学習者心理	4	堀井恵子	武蔵野大学 名誉教授
⑬	職場コミュニケーションに関する言語間対照	1	林千賀	城西国際大学 国際人文学部国 際交流学科 教授
⑩	コースデザイン演習ー概要	2	伊東祐郎	国際教養大学専門職大学院 グ ローバル・コミュニケーション ン実践研究科 日本語教育実践 領域代表
⑪	各種指導法ービジネス日本語の具体的指導法	4	道木容子	東京ギャラクシー日本語学校 教務主任
⑭	就労のための日本語教育教材・教具のリソース	2	吉川正則	千駄ヶ谷日本語教育研究所付 属日本語学校 校長

*教育内容の①～⑮は、『日本語教育人材の養成・研修の在り方について（報告）改定版』文化審議会国語分科会（平成31年3月4日）表16「就労者に対する日本語教師【初任】研修における教育内容」記載の教育内容による。

4-3-3. eラーニング科目の特徴

- 1) 効果的、効率的に学べるように1単位時間（45分以上）の講義は、15分程度の動画3本で構成されている。
- 2) 科目毎に理解度チェックテストを設けることにより、受講者自身が自分の理解度を確認できる。
- 3) eラーニング教材は、理論的内容を受講者の任意の時間に自身の学習のペースに合わせて繰り返し学ぶことができる。豊富な人的リソースを活用して作成・開発した豊かな内容の講義となっている。
- 4) eラーニング学習に関する相談に対応できるよう、eラーニング担当講師と事務局スタ

ップを配置している。

4-3-4. eラーニング科目の進め方

受講者の任意の時間に講義動画を視聴して受講を進めていく。1単位時間毎に3問程度の理解度チェックテストに解答することにより、自身の理解度を確認する。なお、理解度チェックテストの全問正解が研修修了要件の一つとなる。

視聴の順番は問わないが、オンライン参加型研修も設定されている科目については、参加型研修の前までに動画視聴と理解度チェックテストを修了しておくよう促した。

4-3-5. オンライン参加型研修科目／自己研修課題

オンライン参加型研修科目はすべてオンライン（Zoom）で行った。

教育内容*	オンライン参加型研修科目名	単位数	自己研修単位数	担当講師名 (敬称略)	所属機関／役職名等 (2021年4月時点)
⑤	就労者の多様性	1		伊東祐郎	国際教養大学専門職大学院 グローバル・コミュニケーション実践研究科 日本語教育実践領域代表
⑦	キャリア支援と日本語教育	1		小田金欣也	千駄ヶ谷日本語教育研究所 附属日本語学校 就職支援室長
⑩	コースデザイン演習—概要	2		伊東祐郎	国際教養大学専門職大学院 グローバル・コミュニケーション実践研究科 日本語教育実践領域代表
⑩	コースデザイン演習 a	1	2	新山忠和	千駄ヶ谷日本語学校 副校長
⑩	コースデザイン演習 b	3	2	新山忠和	千駄ヶ谷日本語学校 副校長
⑩	コースデザイン演習 c	3		吉川正則	千駄ヶ谷日本語教育研究所 附属日本語学校 校長
⑩	コースデザイン演習 d	3		小山紀子	千駄ヶ谷日本語教育研究所 副所長

⑪	各種指導法－ビジネス日本語指導法（演習）	3	1	道木容子	東京ギャラクシー日本語学校 教務主任
⑫	評価・報告－評価及びフィードバックの方法、自律学習	3		吉川正則	千駄ヶ谷日本語教育研究所 附属日本語学校 校長
⑫	評価・報告－分析的な振り返り、内省化の強化				
⑮	異文化調整能力	2		小山紀子	千駄ヶ谷日本語教育研究所 副所長

* 教育内容の ①～⑮は、『日本語教育人材の養成・研修の在り方について（報告）改定版』文化審議会国語分科会（平成 31 年 3 月 4 日）表 16「就労者に対する日本語教師【初任】研修における教育内容」記載の教育内容による。

4-3-6. オンライン参加型研修科目／自己研修課題の特徴

- 1) 双方向のオンライン参加型研修はオンラインで実施することで居住地に捉われず、ネット環境が整えばどこからでも受講可能となるが、本事業では現職者が受講しやすい週末土曜日の午前中に実施した。
- 2) 丁寧な指導を目指すため受講者を 16 名程度とし、事務局スタッフが全体的なサポートをした。
- 3) 受講者が e ラーニング教材を通して習得した内容をお互いに共有し合い、内在化させる他、指導法や教材作成などのグループワークなどを通して、「内省力」の強化につなげる対面型研修を心掛けた。
- 4) 対面型研修の内容を更に深めるために一部の科目には自己研修を設け、個人及びグループでの充実した学びの機会を設けた。

4-3-7. オンライン参加型研修科目／自己研修課題の進め方

e ラーニングと連動して開講される科目に関しては、講義の動画で学んだことを深める目的があることから、受講者に対してはオンライン参加型研修に参加する前に講義の動画を見て理解度チェックテストを受験しておくよう促した。

オンライン参加型研修はグループワーク等を通じて受講者同士で話し合う機会を多く設け、受講者が受け身ではなく、主体的に、自律的に研修に取り組んでいくよう心掛けた。一部の科目に関しては、オンライン参加型研修での学びを深めたり、実践に結びつけたりするために自己研修課題を課し、すべての自己研修課題に取り組み、提出することを修了要件の一つとした。

5. 養成・研修の実施

5-1. 受講者の募集と選考

下記の内容で募集を行った。(表1 募集チラシ参照)

1) 募集内容

「就労者に対する日本語教師【初任】研修～『日本で働く外国人をサポートしよう!』」
eラーニングと双方向通信で行われるオンライン参加型研修のすべてをオンラインで受講可能ですので、どこからでも受講いただけます。また、オンライン参加型研修を除き、ご自身のご都合に合わせて受講いただけますので、現職日本語教師の方も無理なく受講いただけます。「日本語教師としてご自身をもっと成長させたい」という想いのある先生方のご参加をお待ちしております。

2) 研修日程

オリエンテーション	2021年8月7日(土) 9:30～11:00 ※単位対象外
eラーニング受講期間	2021年8月7日(土)～12月17日(金)
オンライン参加型研修	各日 8:45～11:10 (途中休憩あり) 10月2日(土)※、10月16日(土)、10月30日(土)、 11月13日(土) 11月27日(土)、12月4日(土)、 12月18日(土)※ ※10月2日、12月18日は 8:45～12:05
おしゃべり会	2021年9月4日(土) 9:30～11:00 ※単位対象外、参加は任意です。

3) 受講料

15,000円(税込)

4) 定員

16名 ※選考あり

5) 募集受付期間

2021年6月22日～7月26日

※受講希望者多数の場合は早く締切ることがあります。

6) 受講要件(下記すべてに該当する方)

- ・法務省告示校の日本語教師要件を満たす方
- ・これから就労者に日本語を教えたいと考えている方、現在教えている方
- ・就労者に対する日本語教師歴0年～3年程度までの方【初任】
※就労者以外への指導経験は含みません。

- ・原則として、オンライン参加型研修全日程に参加できる方（各日 3～4 単位時間の研修を行いますので、1 日以上の欠席で、修了条件を満たさなくなる場合がございます。）
- ・web カメラ・マイクが使用できるコンピューターと安定したネットワーク環境をご自身でご用意できる方（※スマートフォン非推奨）

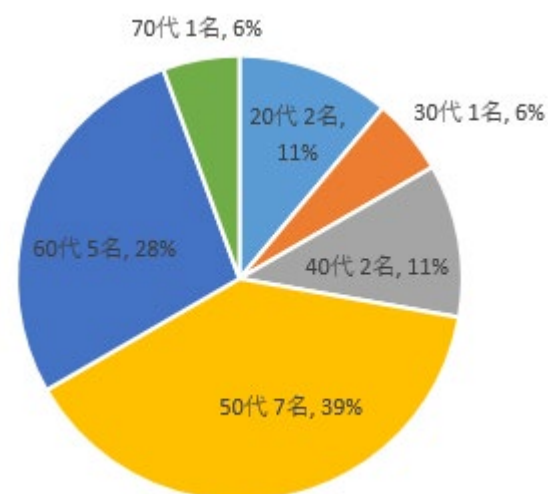
7) 修了要件

- ・期日までの e ラーニング全科目受講完了
- ・オンライン参加型研修 22 単位時間中 18 単位時間以上の出席
- ・すべての自己研修課題の提出

8) 選考

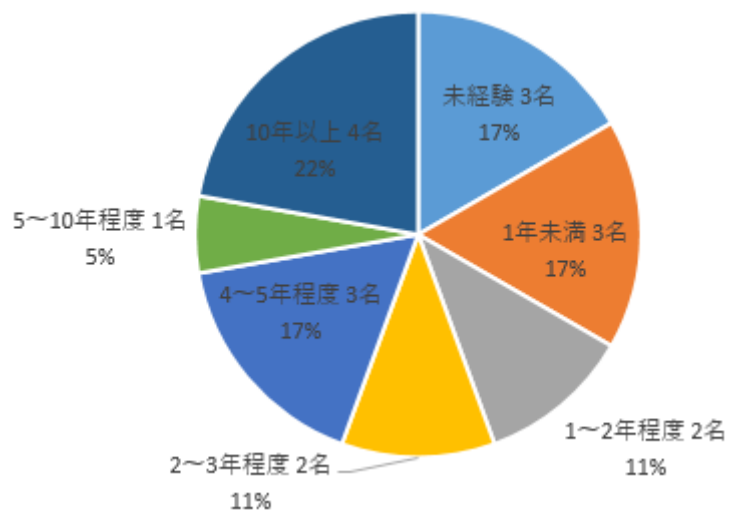
申込者 18 名について受講要件のチェック、志望動機等による検討を行い、当初の予定よりも 2 名多い 18 名全員を合格とした。（ただし、研修開始後、4 名は事情により辞退）

年代	人数	割合
20代	2名	11.1%
30代	1名	5.6%
40代	2名	11.1%
50代	7名	38.9%
60代	5名	27.8%
70代	1名	5.6%



現在の勤務形態	人数
専任講師	3名
非常勤講師	9名
ボランティアスタッフ	1名
事務職員	1名
個人事業主	1名
その他	1名
なし	2名

日本語教師としての指導経験



「就労者」に対する指導経験

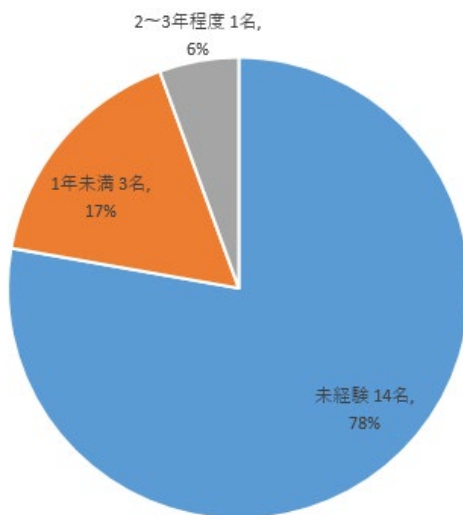




表 1



文化庁

文化庁 令和3年度日本語教育人材養成・研修カリキュラム等開発事業



一般社団法人
応用日本語教育協会

就労者に対する日本語教師【初任】研修

～日本で働く外国人をサポートしよう！～

研修の目的

- ✓ 就労者に対する日本語教育を行うための「知識」、実践的「技能」そして、教育者たる「態度」を有する日本語教師になること
- ✓ 勤務先などの要望等を理解して、就労者のサポートができる日本語教育人材になること

1. 実施機関
一般社団法人応用日本語教育協会（文化庁より受託して実施）
2. 研修内容（詳細は裏面参照）
 - ・ eラーニング（講義）33単位時間
 - ・ オンライン参加型研修（主に演習）22単位時間
 - ・ 自己研修 5単位時間
3. 研修日程 ※オリエンテーション（オンライン）2021年8月7日（土）9:30～11:00
 - ・ eラーニング受講期間：2021年8月7日（土）～12月17日（金）
 - ・ オンライン参加型研修：各日8:45～11:10（途中休憩あり）※10月2日、12月18日は 8:45～12:05

10月2日（土）※	10月16日（土）	10月30日（土）	11月13日（土）
11月27日（土）	12月4日（土）	12月18日（土）※	

 - * 自己研修はオンライン参加型研修の課題を個人またはグループで準備する時間です。実施時間については各自任意の時間に行っていただきます。
 - * おしゃべり会（オンライン）2021年9月4日（土）9:30～11:00（単位対象外、参加は任意です。）
4. 研修実施方法
 - ・ eラーニング ⇒ 専用の研修サイトで動画を視聴、各科目の確認テスト実施
 - ・ オンライン参加型研修 ⇒ Zoomで実施
5. 定員 16名
6. 二次募集申込受付期間 ～2021年7月26日（月）9:00（予定）
 - * 但し、受講希望者多数などの場合は申込受付を予定よりも早く締切ることがございます。
7. 受講要件（下記すべてに該当する方）
 - ① 法務省告示校の日本語教師要件を満たす方
 - ② 就労者に対する日本語指導経験が0～3年程度までの方【初任】、これから就労者に日本語を教えたいと考えている方 ※就労者以外への指導経験は含みません。
 - ③ 原則として、オンライン参加型研修全日程に参加できる方（各日3～4単位時間の研修を行いますので、1日以上欠席で、修了条件を満たさなくなる場合がございます。）
 - ④ webカメラ・マイクが使用できるコンピューターと安定したネットワーク環境をご自身で用意でき、操作できる方（※スマートフォン非推奨）
8. 受講料 15,000円（税込）

研修はすべてオンラインで完結
どこからでも安全に受講可能



文化庁 令和3年度日本語教育人材養成・研修カリキュラム等開発事業
就労者に対する日本語教師【初任】研修～日本で働く外国人をサポートしよう！～



文化庁 研修内容 *科目名等変更の可能性あり

【eラーニング】科目名	講師	所属機関/役職名等
人の移動とダイバーシティ	春原憲一郎	京都日本語学校 校長
日本の外国人材受け入れ施策	伊東祐郎	国際教養大学専門職大学院 グローバル・コミュニケーション実践研究科 日本語教育実践領域代表
日本と海外の労働に関する制度の違い	丹野勲	神奈川大学 経営学部国際経営学科教授
外国人材とメンタルヘルスケア	新山忠和	千駄ヶ谷日本語学校 副校長
就労者の多様性	高見澤孟	元米国国務省日本語研修所、元昭和女子大学大学院
就労者に対する日本語教育 (就労のための日本語教育の多様性)	小山紀子	千駄ヶ谷日本語教育研究所 副所長
就労者に対する日本語教育 (就労に関わる日本語能力の要件)	新山忠和	千駄ヶ谷日本語学校 副校長
職場におけるコミュニケーションと日本語教育	高見澤孟	元米国国務省日本語研修所、元昭和女子大学大学院
キャリア支援と日本語教育	新山忠和	千駄ヶ谷日本語学校 副校長
就労者の異文化受容・適応	林千賀	城西国際大学 国際人文学部国際交流学科 教授
学習動機と就労現場における学習者心理	堀井恵子	元武蔵野大学大学院 言語文化研究科 教授
職場コミュニケーションに関する言語間対照	林千賀	城西国際大学 国際人文学部国際交流学科 教授
コースデザイン演習－概要	伊東祐郎	国際教養大学専門職大学院 グローバル・コミュニケーション実践研究科 日本語教育実践領域代表
各種指導法－ビジネス日本語の具体的指導法	道木容子	東京ギャラクシー日本語学校 教務主任
就労のための日本語教育教材・教具のリソース	吉川正則	千駄ヶ谷日本語教育研究所付属日本語学校 校長

【オンライン参加型研修】科目名	講師	所属機関/役職名等
就労者の多様性	新山忠和	千駄ヶ谷日本語学校 副校長
キャリア支援と日本語教育	新山忠和	千駄ヶ谷日本語学校 副校長
	小田金欣也	千駄ヶ谷日本語教育研究所付属日本語学校 就職支援室長
概要－コースデザイン	伊東祐郎	国際教養大学専門職大学院 グローバル・コミュニケーション実践研究科 日本語教育実践領域代表
演習－コースデザイン	吉川正則	千駄ヶ谷日本語教育研究所付属日本語学校 校長
	小山紀子	千駄ヶ谷日本語教育研究所 副所長
	新山忠和	千駄ヶ谷日本語学校 副校長
演習－各種指導法(ビジネス日本語指導法)	道木容子	東京ギャラクシー日本語学校 教務主任
評価・報告－評価及びフィードバックの方法、 自律学習	吉川正則	千駄ヶ谷日本語教育研究所付属日本語学校 校長
評価・報告－分析的な振り返り、内省化の強化	吉川正則	千駄ヶ谷日本語教育研究所付属日本語学校 校長
異文化調整能力	小山紀子	千駄ヶ谷日本語教育研究所 副所長

*期日までのeラーニング全科目受講完了、オンライン参加型研修22単位時間中18単位時間以上の出席、自己研修課題提出を以て、修了証を発行。

受講前の準備【Zoomのインストールとアカウント登録】
オリエンテーションとオンライン参加型研修はZoomを使用してご参加いただけます。既に利用している方は、改めてインストールおよび登録の必要はありません。
①下記URLから「ミーティング用Zoomクライアント」をダウンロードし、パソコン等にインストールしてください。
https://zoom.us/download#client_4meeting
②Zoomのアカウントをご作成ください。(Googleのアドレスをお持ちの方はGmailアドレスでサインイン可能ですので別途作成の必要はありません。)

【受講申込方法】

- ① ホームページの受講申込フォームよりお申込ください。
- ② お申込みの際にご入力いただいた内容によって選考し、5営業日以内に受講の可否を個別に通知いたします。(受講料の入金方法等についてもご連絡いたします。)
- ③ 指定期日までに受講料をご入金ください。

二次募集申込受付期間 ～2021年7月24日(月)9:00(予定)
*但し、受講希望者多数などの場合は申込受付を予定よりも早く締切場合がございます。

お問合せ先：一般社団法人応用日本語教育協会(事務局)
E-mail: contact@ajlea.net TEL: 03-6812-1972 (平日9:00～17:00)



5-2. 研修の事前準備

5-2-1. 学習管理システム「eden」の環境整備

e ラーニング科目原稿執筆者より受領した原稿をもとに教材の作成を進め、完成した動画・理解度チェックテストを学習管理システム「eden」へアップロードした。アップロードしたものは、順次動作確認を行った。

☆人の移動とダイバーシティ【2単位時間】春原憲一郎

コンテンツ名	種類	進捗率/得点	最終学習日
  人の移動とダイバーシティ1-1	レッスン	100	2021/09/16
  人の移動とダイバーシティ1-2	レッスン	100	2021/09/16
  人の移動とダイバーシティ2-1	レッスン	100	2021/09/16
  人の移動とダイバーシティ2-2	レッスン	100	2021/09/16
  人の移動とダイバーシティ2-3	レッスン	100	2021/09/17
  確認テスト (6問) (合格ライン:100点,制限時間:10分)	テスト	合格 100 履歴を見る	2021/09/17
  「過密化から親密さへ」	レッスン	100	2021/10/05
  *講師略歴 (春原憲一郎)	レッスン	100	2021/10/05

☆日本の外国人材受入れ施策【2単位時間】伊東祐郎

コンテンツ名	種類	進捗率/得点	最終学習日
  日本の外国人材受入れ施策1-1	レッスン	100	2021/10/11
  日本の外国人材受入れ施策1-2	レッスン	100	2021/09/09
  日本の外国人材受入れ施策1-3	レッスン	100	2021/09/15
  日本の外国人材受入れ施策1-4	レッスン	100	2021/09/16
  確認テスト (3問) (合格ライン:100点,制限時間:10分)	テスト	合格 100 履歴を見る	2021/08/05
  *講師略歴 (伊東祐郎)	レッスン	100	2021/07/29

☆日本と海外の労働に関する制度の違い【2単位時間】丹野勲

コンテンツ名	種類	進捗率/得点	最終学習日
  日本と海外の労働に関する制度の違い1-1	レッスン	100	2021/09/17

5-2-2. オンライン参加型研修担当講師との事前打合せ

オンライン参加型研修実施に際しては、毎回、事務局と担当講師とで事前打合せを行い、研修の目的や全体の構成、科目内容等を再度確認し、受講者に関する情報を共有した。また、事前に内容を確認すべく、授業内容に関する表の作成を依頼した。

就労者に対する日本語教師【初任】研修 応用協
オンライン参加型研修 授業内容につきまして

オンライン参加型研修をご担当くださり、ありがとうございます。授業の内容につきまして、事前にお知らせいただきたく存じます。

下記の表を埋めて、ご担当日の1週間前までに事務局へお送りください。なお、研修生に事前課題を課す場合は、2週間前までにお知らせください。

科目	
日時・単位時間	
eラーニング研修	○○単位時間 ※研修生視聴済み。関連した内容をお願いします。
自己研修	○○単位時間 ※事前または事後の課題を課してください。
事前課題	無し・有り [課題の内容] [事務局への連絡事項]
事後課題	無し・有り [課題の内容] [事務局への連絡事項]
授業の目的または目標	
授業の流れ ※簡単に結構です	

以上、どうぞよろしくお願いいたします。

5-3. 研修の実施

研修は下記の日程で実施した。

研修期間：2021年8月7日（土）～12月18日（土）

<研修日程>

- ・開講式／オリエンテーション
8月7日（土）9:00～11:00 ※単位対象外
- ・eラーニング受講期間
8月7日（土）～12月17日（金）午前9:00
- ・オンライン参加型研修
10月2日（土）※、10月16日（土）、10月30日（土）、11月13日（土）
11月27日（土）、12月4日（土）、12月18日（土）※
各日8:45～11:10（途中休憩あり）
※10月2日は8:45～12:05
- ・自己研修
オンライン参加型研修の課題を各自任意の時間に行う。
- ・おしゃべり会
9月4日（土）9:30～11:00 ※単位対象外、参加は任意
- ・修了式
12月18日（土）11:15～12:00 ※単位対象外

5-3-1. 開講式／オリエンテーション

研修開始前に、オンライン（Zoom）で開講式とオリエンテーションを行い、受講生17名（1名欠席）が参加した。本研修の目的や目標、受講方法、注意事項等を説明し、その後のオンライン参加型研修でグループワークが行われることから、全体での自己紹介とブレイクアウトセッションでのグループトーク（テーマ：「日本語教師になった／なりたいと思ったきっかけ」）の時間を設けた。

受講者からは、「日本語教師歴は長いが就労者への指導経験がなく、日本語教師としてもっと成長したいと思い応募した。」など、前向きな声が多く聞かれた。

以下は、研修受講の注意事項、eラーニング研修マニュアル、オンライン参加型研修マニュアル（一部抜粋）である。

研修受講の注意事項

一般社団法人応用日本語教育協会主催

文化庁 令和3年度日本語教育人材養成・研修カリキュラム等開発事業

就労者に対する日本語教師【初任】研修 ～日本で働く外国人をサポートしよう！～

研修受講に際して(留意事項)

【eラーニング研修】LMS「eden」使用

- LMS 上での e ラーニング研修科目の受講は、2021 年 12 月 17 日(金)午前 9:00 迄となります。その時点までの受講状況に基づき、12 月 18 日(土)に修了証の発行を行います。
- LMS のアカウントは、1 名につき 1 つのアカウントをご使用ください。万が一、アカウントの共有が判明した場合は、それ以降の受講をお断りし、修了証の発行も行いません。その場合、受講料の返金は致しかねます。

【オンライン参加型研修】Zoom ミーティング使用

- Zoom を初めて利用される方は、下記 URL から「ミーティング用 Zoom クライアント」を事前にダウンロードをしてください。(Web ブラウザでの参加も可能ですが、アプリの利用を推奨しております。)
<https://zoom.us/download>
- 受講当日は、開始5分前にマイクテストを兼ねた出席確認を行います。5分前迄に入室して下さい。
- 受講当日は、安定したインターネット環境下で、マイクおよびカメラを備えた PC(スマートフォンやタブレットは非推奨)をご準備ください。お一人で集中ができる静かな環境を確保して下さい。
- オンライン接続により、電池消耗が早くなります。充電しながらの受講を推奨いたします。
- Zoom の表示名は、ニックネームではなく、お名前(本名、漢字フルネーム)をご入力ください。
- 研修中は、カメラはオン、講師が指示したとき以外は、マイクはオフにしてください。
- 複数デバイスでの参加(PCとタブレット等)はご遠慮ください。但し、映像が見えない・音声が届かないなど正常に作動しない事象が生じた場合は、他のパソコン、あるいはタブレットなどの他のデバイスをお試しください。
- オンライン参加型研修ではグループワークの実施が予定されています。お名前と連絡先メールアドレスを他の受講生の方々、および担当講師と共有する場合がございますので、ご了承ください。
- 研修当日の連絡先: 03-6812-1972(事務局)
※ 研修当日の電話連絡は、8:00~8:30 とさせていただきます。
- 欠席の連絡は不要です。欠席の場合、振替等の対応はいたしません。また、当日の研修内容に関する質問にはお受けできません。

【その他】

- 研修受講のための機器や回線の準備・設定等は、事前に受講者様ご自身の責任で行ってください。尚、当該準備・設定等及び通信等にかかる費用は全て受講者様のご負担となります。

- 携帯電話会社の回線でも受講は可能ですが、通信量が大きいので、ご自宅で契約された有線 LAN ケーブルや安定したインターネット回線(Wi-Fi など)での受講を推奨します。
- オンラインによる研修は、インターネット環境があれば場所を問わず受講できる便利さがある反面、通信状況やその他の理由により、音声途切れる、画像が固まる、つながらない等のトラブルが起こる可能性があります。受講者様の使用されているデバイスやブラウザ、インターネット環境およびアクセス状況等によって正常に視聴・受講できない場合、当法人では責任を負いかねます。
- 受講者様のご都合により視聴・受講できなかった場合、受講料の返金は致しません。但し、研修の担当講師及び主催者側の不具合により講義の受講が中断し、回線回復できない場合には、録画を配信するなどの代償を行います。
- 本研修の e-ラーニング研修およびオンライン参加型研修の録画・録音・撮影、スクリーンショットやダウンロードおよび研修資料等の無断転用や受講用 URL の無断転載は固くお断りいたします。万が一、これらの行為が発覚した場合、著作権および肖像権侵害で対処させていただく場合がございます。
- 本研修にて知り得た個人情報を外部公開されないようお願いいたします。
- オンライン参加型研修は、文化庁等への研修実施報告、研修事業評価を行う目的で、主催者はビデオの記録を行います。また、記録したものを広報等のためにホームページ等で一般公開する場合は、対象となる受講者様に許可を得る、または受講者様個人が特定できないよう配慮いたします。
- 開講後のキャンセルは認めません。その場合、返金も致しません。
- 修了証の再発行は致しません。
- 本研修は文化庁から委託を受けて実施されます。今後の日本語教育と日本語教師の向上のために、アンケート等をお願いする場合がございます。ご協力をお願いいたします。

【修了要件】

- e ラーニング研修全科目受講(2021年12月17日(金)午前9:00まで)
- e ラーニング研修全科目確認テスト全問題全正解(上記期日迄、何度でも受けられます)
- オンライン参加型研修 22 単位中 18 単位以上参加(欠席した科目の振替等の対応はありません)
- 自己研修課題(5 単位時間)
 - ※ 課題: オンライン参加型研修の事前課題または事後課題となります。別途、お知らせします。
- 修了レポート(提出期間:12/4(土)~12/13(月))
- セルフチェックシート×2 回(研修開始時・研修修了時)
- 受講者アンケート(研修修了時)

【免責事項】

- 本研修の e ラーニング研修のツールとしてエデン株式会社(<https://eden.ac/e-learning/>)のシステムを利用しています。ご利用に関しましては、エデン株式会社の利用規約に準じます。また、本システムを利用したことにより、または利用できなかったことにより、お客様または第三者が被った損害について、当社は一切の責任を負いません。

- 本研修のオンライン参加型研修のツールとして Zoom 社 (<https://zoom.us/>) のサービスを利用しています。ご利用に関しましては、Zoom 社の利用規約に準じます。また、本サービスや本サービス用のアプリケーション等を利用したことにより、または利用できなかったことにより、お客様または第三者が被った損害について、当社は一切の責任を負いません。

以上

2021年8月7日

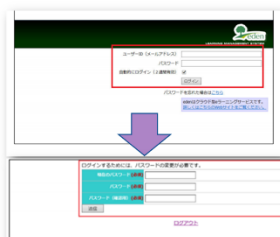
一般社団法人応用日本語教育協会

e ラーニング研修マニュアル

Eラーニング研修受講について (LMS操作方法等)

① サイトにログイン

- サイト (<https://eden.ac/login>) にアクセスします。
- ログインをします。




- ユーザーID (メールアドレス) = 申込時に使用したメールアドレス
- 初期パスワード

(初回のみ)
ログインに成功するとパスワード変更画面が
出ます。パスワードの変更をしてください。

② 受講者画面TOP

- パスワード変更完了後、受講者画面TOPに移ります。



- 受講する度に「お知らせ【一覧】」を確認してください。

各科目の主な構成

※1単位時間 = 45分以上

コンテンツ名	種類	講義/点数	確認テスト
【10/2参加あり】 海外者の多様性【1単位時間】 高見洋史	レッスン	0	
【10/2参加あり】 海外者の多様性【1単位時間】 高見洋史	レッスン	0	
【10/2参加あり】 海外者の多様性【1単位時間】 高見洋史	テスト		0

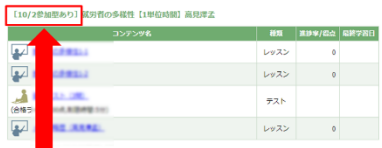
- 1単位時間の主な科目構成
 - ✓ 講義 (動画) × 3本程度
 - ✓ 確認テスト (回答時間:5分)

講義 (動画) + 確認テスト = 45分以上

※複数単位時間の主な科目構成

- ✓ 講義 (動画) × 3本程度 × 単位時間数
- ✓ 確認テスト (回答時間:5分 × 単位時間数)

③ 科目構成 (その他)




- eラーニング研修とオンライン参加型研修と連動して開講される科目については、「【LX/XX参加あり】」と記載があります。該当科目については、オンライン参加型研修に参加する前までに、eラーニングを受講しておいてください。

④ 講義 (動画) 視聴

- 各コンテンツをクリックすると、レッスン動画/テスト画面が表示されます。
- 視聴した動画には「完了」が表示されます。

※システムの場合、レッスンを開いた段階で「完了」と表示されます。但し、コンテンツ視聴時間には管理者が確認しています。

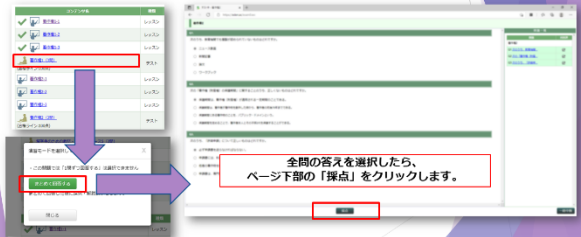
- 視聴後、ページ下部の「終了」をクリックすると、受講者画面TOPに戻ります。
- 完了したコンテンツの横には「✓」が表示されます。



※一部科目は合成音声を使用しています。
※講義 (動画) は「完了」後も繰り返し視聴可能です。

⑤ 確認テスト受験

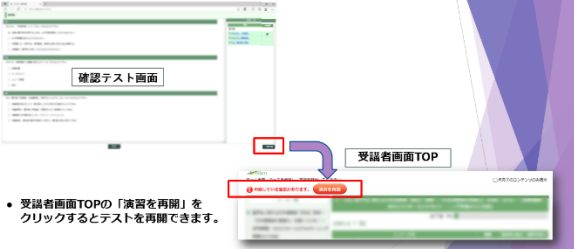
- コンテンツ名の確認テストの箇所をクリックします。
- 確認テストの合格ラインは全問正解です。全問正解するまで繰り返し受験をします。



全問の答えを選択したら、ページ下部の「採点」をクリックします。

⑥ 確認テスト受験 (一時中断する場合)

- 確認テストを途中で一時中断する場合は、ページ下部の「一時中断」で回答を保存します。



- 受講者画面TOPの「演習を再開」をクリックするとテストを再開できます。

⑦ 確認テスト結果

- 確認テスト画面の「採点」をクリックすると、結果画面が表示されます。
- 不合格の場合は、再度確認テストを受験します。
- 結果は受講者画面TOPでも確認できます。

採点結果画面

受講者画面TOP

名前	種別	得点率/満点
山田太郎	レッスン	100
山田太郎	レッスン	100
山田太郎	レッスン	100
山田太郎	テスト	0/100 (提出済)
山田太郎	レッスン	100
山田太郎	レッスン	0
山田太郎	レッスン	0
山田太郎	テスト	0/100 (提出済)

⑦ 確認テストの結果（解説）

- 受講者画面TOPの「履歴を見る」をクリックすると、正解した問題の解説を確認できます。

受講者画面TOP

名前	種別	得点率/満点
山田太郎	レッスン	100
山田太郎	レッスン	100
山田太郎	レッスン	100
山田太郎	テスト	0/100 (提出済)
山田太郎	レッスン	100
山田太郎	レッスン	0
山田太郎	レッスン	0
山田太郎	テスト	0/100 (提出済)

⑧ 課題提出（一部科目のみ）

- 課題提出は「お知らせ【一覧】」に各課題毎に課題内容・提出期限等が記載されます。

受講者画面TOP

課題提出画面

※課題をアップロードする際は、ファイル名の最初に名前を入れてください。
【例】(名前) XXX.doc

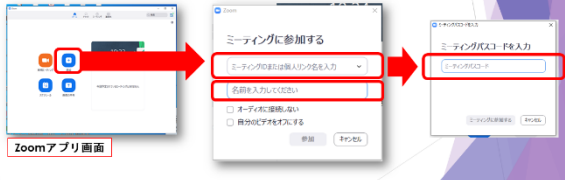
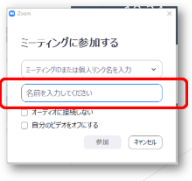
↑このアイコンをクリックすると「ファイルのアップロード」画面が開きます。指定のファイル形式で課題をアップロードをして、「課題を提出」をクリックしてください。

⑧ 課題提出（一部科目のみ）

- 提出が完了すると、受講者画面TOPに「提出済み」と表示されます。

受講者画面TOP

オンライン参加型研修マニュアル

<p>研修受講に際して（留意事項） 【オンライン参加型研修】Zoomミーティング使用</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 研修前日迄に、LMSとメールでお知らせするミーティングIDとパスコードを入力して入室してください。  <p>Zoomアプリ画面</p>	<p>研修受講に際して（留意事項） 【オンライン参加型研修】Zoomミーティング使用</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Zoomを初めて利用される方は、下記URLから「ミーティング用Zoomクライアント」を事前にダウンロードをしてください。（Webブラウザでの参加も可能ですが、アプリの利用を推奨しております。） https://zoom.us/download ● 受講当日は、開始5分前にマイクテストを兼ねた出席確認を行います。5分前には入室して下さい。 ● 受講当日は、安定したインターネット環境下で、マイクおよびカメラを備えたPC（スマートフォンやタブレットは非推奨）をご準備ください。お一人で集中ができる静かな環境を確保して下さい。 ● オンライン接続により、電池消費が早くなります。充電しながらの受講を推奨いたします。
<p>研修受講に際して（留意事項） 【オンライン参加型研修】Zoomミーティング使用</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Zoomの表示名は、ニックネームではなく、お名前（本名、漢字フルネーム）をご入力ください。 	<p>研修受講に際して（留意事項） 【オンライン参加型研修】Zoomミーティング使用</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 複数デバイスでの参加（PCとタブレット等）はご遠慮ください。但し、映像が見えない・音声が聞こえないなど正常に作動しない事象が生じた場合は、他のパソコン、あるいはタブレットなどの他のデバイスをお試しただいて構いません。 ● オンライン参加型研修ではグループワークの実施が予定されています。お名前と連絡先メールアドレスを他の受講生の方々、および担当講師と共有する場合がございますので、ご了承ください。 ● 研修当日の連絡先：03-6812-1972（事務局） ※研修当日の電話連絡は、8:00～8:30とさせていただきます。 ● 欠席の連絡は不要です。欠席の場合、振替等の対応はいたしません。また、当日の研修内容に関する質問にはお受けできません。

5-3-2. eラーニング研修

受講期間：8月7日（土）～12月17日（金）午前9:00

受講者は任意の時間に講義動画を視聴して受講を進めた。視聴の順番は特に指定しなかったが、オンライン参加型研修と連動している科目については、講義の動画で学んだことを深める内容となっているため、参加型研修の前までに動画視聴と理解度チェックテストを終えておくようにオリエンテーションで受講生に伝えた。マニュアルを eden 内でいつでも確認できるようにしていたため、問題なく受講を進めることができたようだ。

受講者自身で進捗を管理して進めることにしていたが、事務局が定期的に受講状況を確認し、視聴が滞っている場合は個別にメールで連絡を取るようにした。

科目の詳細は「4-3-2. eラーニング科目」を参照。

【各講義の内容】

科目名	人の移動とダイバーシティ （2 単位時間）
担当講師	春原憲一郎 京都日本語学校 校長
授業の目的・目標	・日本語を学ぶ外国人就労者が、日本で仕事をするに至った背景や想いを想像できる日本語教師となり、現場の日本語教育にいかせる学びを得る。 ・移動とダイバーシティ、多様性というキーワードから、自分自身や日本語教育とのつながりを考える機会とする。
授業内容	第1部：進化の歴史とグローバル化に至るまで 第2部：グローバル化とデジタル世界の多様性

科目名	日本の外国人材受入れ施策 （2 単位時間）
担当講師	伊東祐郎 国際教養大学専門職大学院 グローバル・コミュニケーション実践研究科 日本語教育実践領域代表
授業の目的・目標	就労に関わる在留資格を理解する。
授業内容	第1部：ビザ（査証）と在留資格 第2部：入管法（出入国管理及び難民認定法）改正 第3部：E P A （経済連携協定）に基づく外国人候補者受入れ

科目名	日本と海外の労働に関する制度の違い (2 単位時間)
担当講師	丹野勲 神奈川大学 経営学部国際経営学科教授
授業の目的・目標	日本と海外の労働制度について国際比較の観点から考える。
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 雇用管理 ・ 賃金制度 ・ 労働時間と休日 ・ 職務、人事考課、キャリア、教育訓練 ・ 労働組合と労使関係 ・ 海外での日系企業の現地経営 ・ 海外派遣者の人材

科目名	外国人材とメンタルヘルスケア (1 単位時間)
担当講師	新山忠和 千駄ヶ谷日本語学校 副校長
授業の目的・目標	メンタルヘルス、メンタルヘルスケアについて理解し、外国人就労者特有の多重な問題について知識を深める。
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. メンタルヘルス、メンタルヘルスケアとは何か 2. 職場におけるメンタルヘルスケアの現状 3. メンタルヘルスケアの取組状況 4. 期待されるメンタルヘルスケア

科目名	就労者の多様性 (1 単位時間)
担当講師	高見澤孟 元米国国務省日本語研修所、元昭和女子大学大学院
授業の目的・目標	外国人の受入に関する現状と課題を理解する。
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 就労者の多様性に関する背景事情 ・ 様々な在留資格について

科目名	就労者に対する日本語教育（就労のための日本語教育の多様性） （4 単位時間）
担当講師	小山紀子 千駄ヶ谷日本語教育研究所 副所長
授業の目的・目標	外国人材とともに働いて経験した具体的なエピソードを知ることによって、日本語教育を行う際の留意点を考察する。
授業内容	外国人材とともに働いている日本人や外国人材を働く現場に送り出すための研修に関わっている日本人へのインタビューを視聴する。 第1部：介護の現場 第2部：団体、企業、コンビニ、の各業種の現場、まとめ

科目名	就労者に対する日本語教育（就労に関わる日本語能力の要件） （2 単位時間）
担当講師	新山忠和 千駄ヶ谷日本語学校 副校長
授業の目的・目標	就労に関わる日本語の要件について、就労の現場で日本語能力がどのように捉えられているかを概観し、国際的な言語能力評価の枠組み、就労の態様と求められる日本語能力の要件、日本語能力の客観的証明となる大規模言語試験の代表例を取り上げて具体的に見て理解を深める。
授業内容	1. 就労現場で求められる一般的な日本語能力の要件 2. 国際的な言語能力評価の枠組み 3. 就労の態様ごとに求められる日本語能力の要件 4. 日本語能力の証明や判断基準として使われる日本語テスト 5. 効果的な試験対策

科目名	職場におけるコミュニケーションと日本語教育（3 単位時間）
担当講師	高見澤孟 元米国国務省日本語研修所、元昭和女子大学大学院
授業の目的・目標	就労者に対する日本語の教授に関する知識として、職場においてどのような日本語能力が必要とされているのかを把握し、それぞれの就労者に適した日本語教育ができる実践的な知識を持つ。
授業内容	第1部：言語的背景と日本語教育 就労分野別に、問題点、学習内容、指導の具体例を紹介 第2部：文化的背景と日本語教育

	日本文化と日本語との関りから、日本語教育のあるべき姿を検討
--	-------------------------------

科目名	キャリア支援と日本語教育 (2単位時間)
担当講師	新山忠和 千駄ヶ谷日本語学校 副校長
授業の目的・目標	キャリアとは何か、キャリア支援の流れと、キャリア支援の現場、日本語教師として支援する側として、どのような姿勢で臨み、関わっていけばいいのかを考える。
授業内容	1. キャリアとは何か 2. キャリア支援の流れ 3. キャリア支援の実際と日本語教育の関わり ～人材紹介や人材派遣の現場から～

科目名	就労者の異文化受容・適応 (1単位時間)
担当講師	林千賀 城西国際大学 国際人文学部国際交流学科 教授
授業の目的・目標	就労者の異文化変容と異文化適応の観点から「異文化間トレランス」について理解を深める。
授業内容	<p>【第1章】多文化共生・異文化適応・異文化変容</p> <p>1-1. 多文化共生とは 1-2. 「異文化適応」と「異文化変容」とは 1-3. 異文化適応のプロセス 1-4. 異文化変容 (culturation) とは 1-5. 異文化変容のプロセス 1-6. 文化変容のレベル</p> <p>【第2章】事例①、②から</p> <p>2-1. 異文化適応に関する事例①から 2-2. 異文化間トレランスの獲得の事例②から</p> <p>【第3章】まとめ</p> <p>3-1. 外国人就労者、受け入れ企業、そして日本語教師が知っておくべきこと 3-2. 最後に</p>

科目名	学習動機と就労現場における学習者心理 (4 単位時間)
担当講師	堀井恵子 武蔵野大学 名誉教授
授業の目的・目標	・ゲストスピーカーの座談会からの引用と解説を行い、職場におけるトラブルの具体例を知る。 ・日本語学習者、就労準備・職場における学習者の成長と言語発達について理解する。
授業内容	職場におけるトラブル1 1. 外国人労働者の現状 2. 職場におけるトラブル 3. 在留資格別トラブル例 職場におけるトラブル2 1. 在留資格別トラブル例 2. 異文化理解不足によるトラブル 学習者の成長と言語発達 就労準備・職場における学習者の成長と言語発達 1. 技能実習生の成長 2. 高度外国人材の成長

科目名	職場コミュニケーションに関する言語間対照 (1 単位時間)
担当講師	林千賀 城西国際大学 国際人文学部国際交流学科 教授
授業の目的・目標	職場においてどのようなコミュニケーションが展開されるのか、事例や表現から考え、就労者がどのような日本語表現を身につけておかなければいけないかを考えながら、目的別日本語教育 (JSP) を行っていくことの重要性を学ぶ。
授業内容	1. 社内の日本語 1-1. 就労者の声：「自分が学んだ日本語と違う」 1-2. 上司から部下へ 1-3. 就労者から上司へ 2. 上司への日本語・社外の日本語：敬語 2-1. 相手が誰かによって異なる敬語の使用 (1) 2-2. 相手が誰かによって異なる敬語の使用 (2) 3. 語用論の観点から 断り、共感、依頼、褒め、曖昧表現、間接表現

科目名	コースデザイン演習—概要 (2単位時間)
担当講師	伊東祐郎 国際教養大学専門職大学院 グローバル・コミュニケーション実践研究科 日本語教育実践領域代表
授業の目的・目標	対面授業、スクーリングで実践に活かせるよう、就労者に対する日本語教育プログラムのコースデザインについて学ぶ。
授業内容	日本語教育の設計図—コースデザイン ニーズ分析の手法、目標設定、シラバスデザイン、カリキュラムデザイン、授業実施、点検、評価、改善の手法

科目名	各種指導法—ビジネス日本語の具体的指導法 (4単位時間)
担当講師	道木容子 東京ギャラクシー日本語学校 教務主任
授業の目的・目標	東京ギャラクシー日本語学校ビジネス日本語クラスでの授業方法を事例として取り上げながら、具体的に考えられる指導項目を整理し、具体的な指導法を学ぶ。
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2. ビジネス日本語指導上の特性 <ol style="list-style-type: none"> 2 - 1 多岐にわたる指導内容 2 - 2 指導上の留意点 3. ビジネス日本語の具体的指導法 <ol style="list-style-type: none"> 3 - 1 日本語力の面から見た指導内容の特性とその指導法 3 - 2 話す力 <ol style="list-style-type: none"> 3 - 2 - 1 指導法実例紹介 電話の場面 3 - 3 語彙 3 - 4 書く力 3 - 5 読む力 3 - 6 聞く力 3 - 7 待遇表現 4. 日本語以外の側面の指導内容

科目名	就労のための日本語教育教材・教具のリソース (2 単位時間)
担当講師	吉川正則 千駄ヶ谷日本語教育研究所附属日本語学校 校長
授業の目的・目標	就労準備から就労後に至るまでの教育実践に必要なリソースについての知識を身につける。
授業内容	1 - 1. 就労のための日本語教育について 2. 教材・教具について 3. リソースについて (自律学習) 4. 教育における ICT について (e ラーニング) 2 - 1. この分野のリソースの実際 2. 著作権法について

5-3-3. オンライン参加型研修／自己研修

オンライン参加型研修は、下記の日程で行った。

10月2日（土）※、10月16日（土）、10月30日（土）、11月13日（土）

11月27日（土）、12月4日（土）、12月18日（土）※

各日 8:45～11:10（途中休憩あり） ※10月2日は 8:45～12:05

オンライン参加型研修等スケジュール		
日程	時間	科目等
2021/10/2（土）	8:45-9:30	「就労者の多様性」
	9:35-10:20	「コースデザイン演習ー概要」
	10:25-11:10	
	11:15-12:00	「コースデザイン演習a」
2021/10/16（土）	8:45-9:30	「各種指導法ービジネス日本語指導法（演習）」
	9:35-10:20	
	10:25-11:10	
2021/10/30（土）	8:45-9:30	「コースデザイン演習b」
	9:35-10:20	
	10:25-11:10	
2021/11/13（土）	8:45-9:30	「コースデザイン演習c」
	9:35-10:20	
	10:25-11:10	
2021/11/27（土）	8:45-9:30	「コースデザイン演習d」
	9:35-10:20	
	10:25-11:10	
2021/12/4（土）	8:45-9:30	「評価・報告」
	9:35-10:20	
	10:25-11:10	
2021/12/18（土）	8:45-9:30	「異文化調整能力」
	9:35-10:20	
	10:25-11:10	「キャリア支援と日本語教育」
	11:15-12:00	修了式（単位対象外）

講師は「4-3-5. オンライン参加型研修科目／自己研修課題」参照

オンライン参加型研修の担当講師と受講者に対しては、研修前日までに eden 内とメールで研修のリマインドを行った。研修当日は開始 5 分前にマイクテストを兼ねて出欠を取るようにした。研修中は常にカメラをオンにすることとし、事務局で定期的に状況を確認し、研修後は Zoom のレポート機能で参加状況を確認して出欠を確認した。遅刻については開始後 10 分まで認めることとした。

【各講義の内容】

科目名	就労者の多様性
日時	2021/10/2（土） 8:45-9:30（1 単位時間）
担当講師	伊東祐郎 国際教養大学専門職大学院 グローバル・コミュニケーション実践研究科 日本語教育実践領域代表
受講者	16 名
授業の目的・目標	外国人受入にかかわる現況を把握した上で、日本語教師の役割を再確認することを目的とします。
授業内容	1. 振り返り ★e ラーニング研修（高見澤先生）受講後の感想やコメントを共有 2. グローバル社会で何が起きているのか ★外国人受入に係わる現況を把握 3. 日本語教育の現状 ★日本語教育の多様化について再確認 4. 日本語教師の資質・能力、そして専門性とは ★就労者に対する日本語教師の役割等について概説

科目名	コースデザイン演習—概要
日時	2021/10/2（土） 9:35-11:10（2 単位時間）
担当講師	伊東祐郎 国際教養大学専門職大学院 グローバル・コミュニケーション実践研究科 日本語教育実践領域代表
受講者	17 名
授業の目的・目標	事前に視聴した「e ラーニング研修」を受講して、就労者に対する日本語教師としての心構えや研修受講に対する自身の目標を明確化することを目的とする
授業内容	1. e ラーニング研修を受講しての振り返り ★ここで受講者からの感想や質問を受け付けます。 2. 日本語プログラムの企画・運営 ★ある職業の日本語プログラムの企画を想定して、e ラーニング研修で学んだ以下の(1)～(2)を再確認します。 (1) ニーズ調査とその分析 (2) レディネス調査とその分析 (3) 学習目標／到達目標の設定

	<p>(4) シラバス・デザイン</p> <p>(5) カリキュラム・デザイン</p> <p>本講義は e ラーニング研修内容の想起を目的とし、後続する「コースデザイン演習」につなげます。</p>
--	--

科目名	コースデザイン演習 a
日時	2021/10/2 (土) 11:15-12:00 (1 単位時間)
担当講師	新山忠和 千駄ヶ谷日本語学校 副校長
受講者	16 名
自己研修課題 (事後課題)	<p>【課題】</p> <p>授業内で視聴する学習者のインタビュー動画とメール文面を基にして、グループ毎にコースデザインを行う。</p> <p>(学習者) 外国人就労者 2 名</p> <p>(コースデザイン)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2 名に対して、90 分の授業を週 2 回、1 カ月、計 8 回指導するという前提でコースデザインを行う。 ・ 内容に盛り込むべきこと。 <ul style="list-style-type: none"> ①コースの目標 ②科目構成 ③科目別の目標 ④教材・教具 ⑤評価 ⑥8 回の授業計画 <p>【グループ単位】 3～4 名一組の 4 グループ</p> <p>【課題の提出】</p> <p>課題は事前に提出させ、担当教師・参加者で事前に共有する。</p>
授業の目的・目標	本研修の狙いを再確認し、ビジネス日本語教育と進学予備教育との違いを踏まえて取り組むことの意義を認識させ、次回以降の演習の課題を示す。自己研修はグループ単位での課題検討・作成の時間となる。
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. コースデザイン演習と関連科目の進め方 2. ビジネス日本語教育と進学予備教育の違い 3. グループワークの進め方 4. 次回 (10/30) への課題 5. 学習者情報とインタビュー動画視聴

科目名	各種指導法－ビジネス日本語指導法（演習）
日時	2021/10/16（土） 8:45-11:10（3 単位時間）
担当講師	道木容子 東京ギャラクシー日本語学校 教務主任
受講者	15 名
自己研修課題 （事前課題）	・ビジネス会話(電話のやり取り)の授業の進め方を考え、教案と資料をグループごとに作成。 ・メールの書き方の授業の進め方を考え、教案と資料をグループごとに作成。
授業の目的・目標	ビジネス日本語の指導法を具体的に学ぶ。 中上級レベルの日本語力の学生にビジネス会話とメールの書き方を指導する。
授業内容	準備をしてきた課題についてグループセッション 課題発表 ・授業の進め方の説明 ・模擬授業 意見交換とフィードバック

科目名	コースデザイン演習 b
日時	2021/10/30（土） 8:45-11:10（3 単位時間）
担当講師	新山忠和 千駄ヶ谷日本語学校 副校長
自己研修課題 （事後課題）	コースデザイン演習 c、d で行う授業実践に向けた教材の準備と事前練習。指導案（教案）は事前に提出する。
受講者	14 名
授業の目的・目標	ビジネス日本語教育は、レディネスの異なる学習者に対して、ニーズに応じて臨機応変の対応が求められることを再確認し、コースデザイン c,d へ繋げる。※コースデザイン b,c,d 共通
授業内容	1. コースデザイン演習と関連科目の進め方（確認） 2. コースデザインの流れ（確認） 3. グループでの打ち合わせ 4. プレゼンテーションと質疑応答、フィードバック 5. 演習 c、d への事後課題について

科目名	コースデザイン演習 c
日時	2021/11/13 (土) 8:45-11:10 (3 単位時間)
担当講師	吉川正則 千駄ヶ谷日本語教育研究所附属日本語学校 校長
受講者	14 名
授業の目的・目標	ビジネス日本語教育は、レディネスの異なる学習者に対して、ニーズに応じて臨機応変の対応が求められることを再確認する。※コースデザイン b,c,d 共通
授業内容	45 分ずつ 2 グループの授業実践 (会話指導) を行い、グループ毎の振り返りと意見交換、担当講師によるフィードバックを行う。

科目名	コースデザイン演習 d
日時	2021/11/27 (土) 8:45-11:10 (3 単位時間)
担当講師	小山紀子 千駄ヶ谷日本語教育研究所 副所長
受講者	14 名
授業の目的・目標	ビジネス日本語教育は、レディネスの異なる学習者に対して、ニーズに応じて臨機応変の対応が求められることを再確認する。※コースデザイン b,c,d 共通
授業内容	45 分ずつ 2 グループの授業実践 (メール指導) を行い、グループ毎の振り返りと意見交換、担当講師によるフィードバックを行う。

科目名	評価・報告
日時	2021/12/4 (土) 8:45-11:10 (3 単位時間)
担当講師	吉川正則 千駄ヶ谷日本語教育研究所附属日本語学校 校長
受講者	13 名
授業の目的・目標	評価及びフィードバックの方法、自律学習についての理解を深めさせ、分析的な振り返りを、実践を通して習得させ、内省力の強化に繋げさせる。
授業内容	1. 評価・フィードバックの方法 2. 分析的な振り返り 3. 自律学習 4. 経験と内省 5. 科目の振り返り

科目名	異文化調整能力
日時	2021/12/18（土） 8:45-10:20（2 単位時間）
担当講師	小山紀子 千駄ヶ谷日本語教育研究所 副所長 *ゲストスピーカー：堤 凜衣（株式会社アスク出版）
受講者	14 名
授業の目的・目標	学習者の異文化理解能力に留まらず、就労者の周囲の日本人社員等の異文化理解能力についても目を向けさせ、周囲の日本人社員に対する教師としての効果的アプローチについても理解を促す。
授業内容	技能実習生について 技能実習生に対する日本語教育の現状 ・技能実習制度における日本語教育（配属前日本語教育） ・受け入れ企業における日本語教育（配属後日本語教育） 技能実習生に関わる日本人とは 技能実習生への日本語教育 日本語教師の役割 まとめ

科目名	キャリア支援と日本語教育
日時	2021/12/18（土） 10:25-11:10（1 単位時間）
担当講師	小田金欣也 千駄ヶ谷日本語教育研究所附属日本語学校 就職支援室長
受講者	14 名
授業の目的・目標	本科目の e ラーニング教材の内容を確認し、現場のプロの話の話を直に聞き、現場での対応についての質疑応答も通して理解を深めさせる。
授業内容	1. 日本語教師が行うキャリア支援とは 2. キャリア支援の実際 ～ キャリア支援の現場から ～

5-4. 評価ツール

5-4-1. セルフチェックシート

Google フォームを使用し、受講生が自己評価を目的に使用するシートを作成した。

『日本語教育人材の養成・研修の在り方について（報告）改定版』文化審議会国語分科会（平成 31 年 3 月 4 日）表 5「就労者に対する日本語教師【初任】に求められる資質・能力」

をもとに、「知識」、「技術」、「態度」などの項目別に、研修生自身がどの程度実践できると認識しているか自己評価する内容となっており、研修開始時と研修修了時の2回、回答を求めた。

セルフチェックシートの項目及び回答は以下の通りである。

【実施時期】：研修開始時…2021年8月7日 研修修了時…2021年12月14日～17日

【回答件数】：14件（有効回答率100%）

カテゴリー		質問	上がった	変化なし	下がった
知識	就労者に対する教育実践の前提となる知識を持っているか。	法制度、外国人材受け入れ施策	79%	21%	0%
		外国人に対するキャリア支援	86%	14%	0%
		職場で用いられる文化やビジネスコミュニケーション等	93%	7%	0%
		職業観や就労に対する意識・習慣、文化摩擦や心理不安の要因	93%	0%	7%
	日本語の指導に関する知識を持っているか。	職場における文化やビジネスコミュニケーション	86%	7%	7%
		就労準備から就労後に至るまでの日本語教育プログラムやリソース・ツール	86%	7%	7%
		学習者に対する自律学習を促す教育実践	93%	0%	7%
技能	就労者に対する教育実践のための技能を有しているか。	就労分野別の学習者の状況に応じた指導計画の立案と実践	86%	14%	0%
		就労に必要となる日本語能力を習得させるための教育実践	86%	14%	0%
		ICT等の多様なリソースを活用した効果的な教育実践	100%	0%	0%
		異文化適応能力を養うための教育実践	79%	14%	7%
	成長する日本語教師になるための技能を有しているか。	自身の授業に対する自己点検(PDCA)	71%	29%	0%
	社会とつながる力を育てる技能を有しているか。	学習者が職場や社会と円滑につながるための教室活動のデザイン	86%	14%	0%

態度	言語教育者としての態度が できているか。	就労先や学習者の課題や目的・目標 を理解し、教育実践に反映させよう とする態度	71%	29%	0%
		学習者のキャリアにプラスになる 支援を行おうとする態度	71%	21%	7%
		職場をはじめとする関係者と円滑 に協力する態度	64%	29%	7%
	学習者に対する態度ができ ているか。	学習者の自律学習を支援する態度	86%	7%	7%
		学習者の異文化の中でのエンパワ ーメントを促す態度	86%	14%	0%
	文化多様性・社会性に対す る態度ができているか。	国内外の外国人材を取り巻く社会 状況の変化に関心を持つとする 態度	79%	14%	7%
		異文化の中で学習者と職場関係者 との相互理解を促そうとする態度	71%	29%	0%

5-4-2. 受講者アンケート

今後、継続的に研修を実施していく際の参考にするため、研修修了時に受講者アンケートを行った。研修の内容の他に、運営方法など研修全体に関する内容となっており、Googleフォームで作成し回答を求めた。

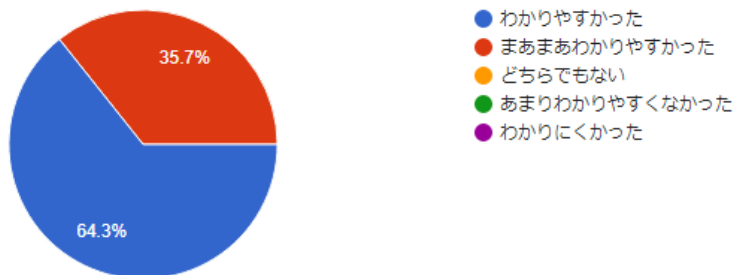
アンケートの項目及び回答は以下の通りである。

【実施時期】：2021年11月14日～17日

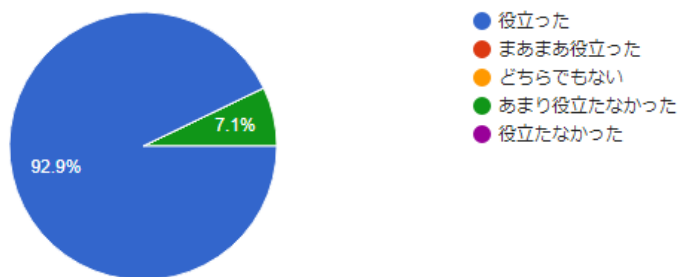
【回答件数】：14件（有効回答率100%）

eラーニング研修について

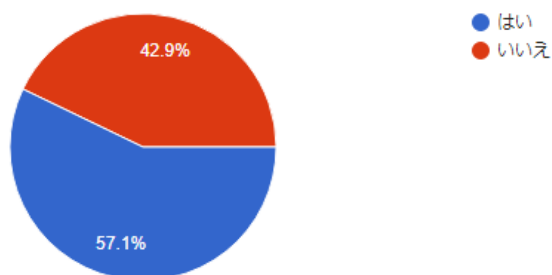
講義はわかりやすかったですか



講義は自分自身の成長に役立つものでしたか。



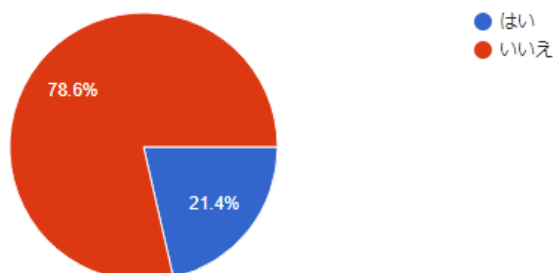
(eラーニング研修のみの科目で) オンライン参加型研修でも講義を受けたいと思った科目はありますか。



(「はい」の方のみ) 科目名を教えてください。(8件の回答・複数回答あり)

- ・就労者の異文化受容・適応 1
- ・学習動機と就労現場における学習者心理 1
- ・職場コミュニケーションにおける言語間対照 2
- ・各種指導法ービジネス日本語の具体的指導法 1
- ・職場におけるコミュニケーションと日本語教育 2
- ・外国人材とメンタルヘルスケア 1
- ・就労者のための日本語教育教材・教具のリソース 1

(オンライン参加型研修と連動する科目で) eラーニング研修の講義のみで十分に学べたという科目はありますか。



(「はい」の方のみ) 科目名を教えてください。(4件の回答)

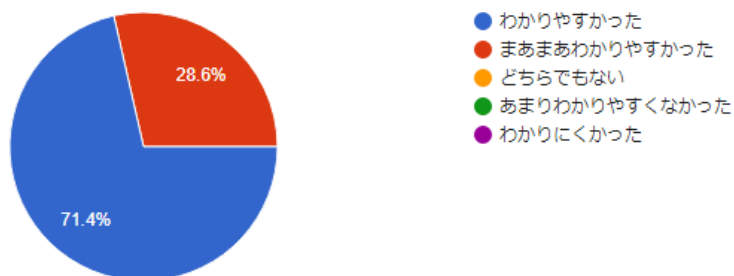
- ・ 就労者の多様性 1
 - ・ 人の移動とダイバーシティ 3
 - ・ 日本の外国人材受け入れ施策 1
- } * この2科目は元々eラーニング研修のみで完結していることから、受講生が質問趣旨を誤解したものと考えられる。

その他、eラーニング研修について、ご意見がおありでしたらご記入ください。

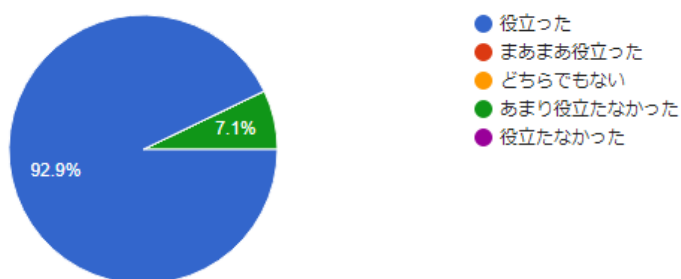
- 不自然なロボットのような話し方はわかりにくい話の方が分かり易いです
- 画像(テキスト)を配信(配布)していただけると、より理解が深まり記憶に留まり易いように思いました。
- 合成音声はアクセントが少しおかしい。違和感があって、手抜きのように思える。本人が直接講義した方がよい。
- カリキュラム前半の主に制度説明の部分。ここは何度も繰り返し見たり、聞き逃したものを再度聞いたりでもむしろeラーニングの方が向いていると思う。教科書などの手元資料がなく、電子音での視聴は最初は慣れずに苦しいと感じた。あと私だけかもしれないが、お顔とご自分の声で講義をされていた先生方は、講義内容も印象に残っている気がする。ただ膨大なデータなども今後アップデートしなくてはいけないので、やむを得ないのかなと途中で自分なりに納得した。林千賀先生の語用論の話、本当に面白かったです。「おもてなしの日本語」購入してみようと思います。
- 大変勉強になりましたが、資料などが全然手元に残らないのが残念です。あとからまた見返すことができるよう資料の配布をお願いしたいです。
- パワーポイントの資料は欲しいです
- 教材としてデータをいただくと、より理解が深まり良いと思います。データが難しければ、冊子の形でテキストがあればいいなと何度も思いました。
- 資料のダウンロードが出来たらよりわかりやすかった。
- とても練られた内容で、とてもわかりやすかったです。
- 資料の配布をしていただき良かった。

オンライン参加型研修について

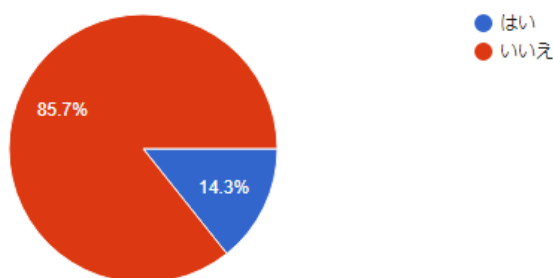
オンライン参加型の研修は分かりやすかったですか。



オンライン参加型の研修は自分自身の成長に役立つものでしたか。



(オンライン参加型研修のみの科目で) eラーニング研修でも講義を受けたいと思った科目はありますか。

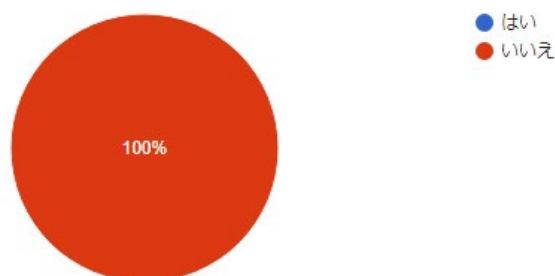


(「はい」の方のみ) 科目名を教えてください。(2件の回答)

- ・就労のための日本語教材・教具のリソース 1
- ・職場コミュニケーションに関する言語間対照 1

*この2科目は元々eラーニング研修のみで完結していることから、受講生が質問趣旨を誤解したものと考えられる。

(eラーニング研修と連動する科目で) オンライン参加型研修の講義のみで十分に学べたという科目はありますか。

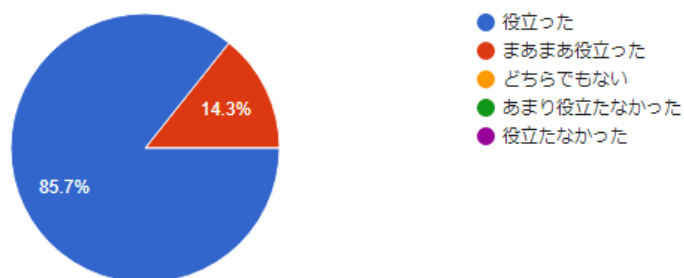


その他、オンライン参加型研修について、ご意見がございましたらご記入ください。

- 全てのことがパソコン操作で決まってしまうので自分の意志と違うように連絡や授業が切り替わってしまったらと、慣れない私にとっては大変緊張することでした。今は何事もなく無事に終わることを祈ってます。
- 大変多くの学びを得ることができました。ご指導いただきまして、ありがとうございました。
- 研修の手順や提出課題について、事前にもう少し説明をしてほしい。
- eラーニング研修のみで良いもの、オンライン参加型研修が必要なもの、連動が必要なもの等、受講者がわかりやすくデザインされていたので、特に変更を望む点はありませんでした。ありがとうございました。
- 最初に交流会を開いてくださった意図が後になってわかったのだが、受講者どうしの共同作業は、かなり参加者のやる気とグループの中のリーダーシップを取る人の存在で満足度が変わってくると感じた。講義内容に関しては、それぞれの先生方の熱意あるご指導で、やはり生の講義はいいなぁとしみじみ思った。小山先生、新山先生は、主に実技部分であったので、先生方もその場での対応が求められる中、先生方の講義スタイル自体が今後の私の授業に取り入れられる部分も多かったと思う。大変勉強になった。講義内容そのものとしては、12月4日の吉川先生の授業が楽しかった。知的好奇心が刺激されて、その後の自分の行動に繋がったため、また何かの機会で先生の講義を聴いてみたいと思っている。
- グループでひとまとまりのある作業ができてよかったです。メンバーの皆さんからいろいろな意見が聞けて、とても勉強になりました。
- パワーポイントは欲しいです。
- 資料をダウンロード出来たらよりよかった。
- 大変勉強になりました。ありがとうございました。

自己研修について

自己研修は自分自身の成長に役立つものでしたか。(20件の回答)

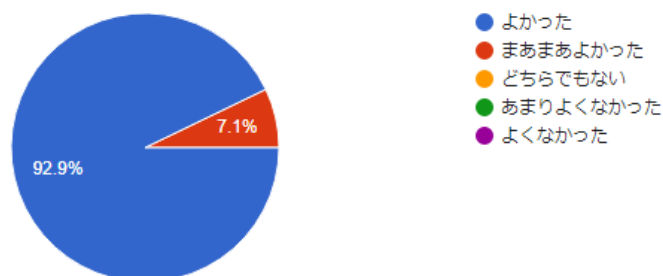


その他、自己研修について、ご意見がおありでしたらご記入ください。

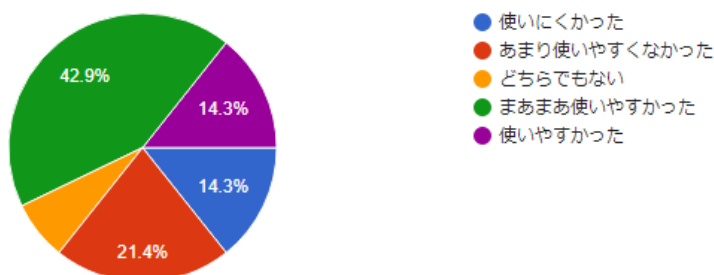
- これからもいろいろな課題を自身でみつけ自己研修を続けていきたいと思っています。
- これを契機に、今後とも継続して学習をしていきたいと思っています。ありがとうございました。
- 学習者自身の「自律学習」を研修の中でも強く言われていたが、まさに自分がその立場に置かれたときに働きながら学習することの難しさを身をもって体験できた。あと LMS で進捗がわかったからこそ、最後まで頑張れたというもある。事務局のみなさんの対応も丁寧でかつとても親切だった。ツールとモチベーションの維持の工夫を様々な角度からしていただいたことで完走できたと思う。
- 課題はオンラインで行う以上、制約があるのは仕方がないと思いますが、グループでの作業がしにくい内容でした。分担をするのが難しかったです。
- オンラインでのグループワークは、時間の確保が必要だと感じた。

研修全体を通して

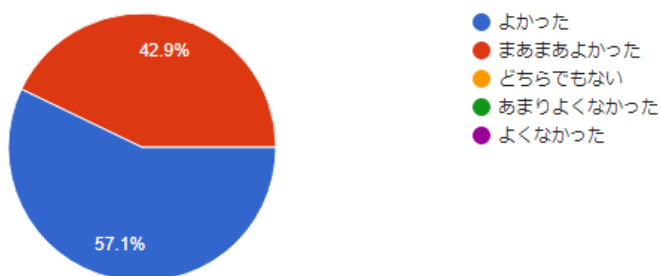
この研修を受講してどうでしたか。(20件の回答)



eラーニングシステムは使いやすかったですか。(20件の回答)



eラーニング研修(33単位時間)、オンライン参加型研修(22単位時間)そして自己研修(5単位時間)の構成はどうでしたか。(20件の回答)



研修全体を通じて、ご意見・ご感想等おありでしたら、ご記入ください。

- 大変お世話になり、ありがとうございます。これから実践の機会が欲しいです。
- 大変有意義かつ充実した研修でした。貴重な機会をいただきましてありがとうございます。
- eラーニングの内容はメモを取っていても、記録しきれないし、忘れてしまう。パワーポイ

ントの原稿がいただけるとありがたい。重要だと思うスライドは、画面をコピーした。

- 受講者が研修を進めやすいように、理解しやすいように e ラーニングとオンライン参加型研修が構成されていて、特に問題点はありませんでした。演習も有意義で、3ヶ月という短い期間でしたが、とても自身の今後のためになる研修でした。ありがとうございました。
- 8月からの4か月間、本当にありがとうございました。このコースに参加できたことに心から感謝しています。大袈裟かも知れませんが、日本語教師として新たなステージに連れて行ってもらえた気がします。レポートにも書きましたが、カリキュラムも講師陣もこのコースのための特別な布陣で、なかなかこのような充実した研修に出会えることはありません。「初任」で現場に立つということはこれからになりますが、これだけの理論武装ができれば、少なくともある程度根拠のある自信に繋がり、クライアントにも就労者にも外的対応はしなくて済むように思います。それと、ここで学んだことをこれで終わらせてはいけない、きちんと社会に還元しようという使命感も芽生えました。来期からは就労者への日本語指導もできそうな感じなので、学んだことをしっかり活かしていきたいと思います。欲を言えばですが、せっかく出会いの場を頂けたので、これで終わってしまうのはもったいないと感じています。有料でもいいので、ブラッシュアップのための機会や、今後もモチベーションを維持したり問題解決をするためのコミュニティづくりなどができたら良いのではないかと思います。(運営のみなさんの負担は重々承知しておりますが・・・)また講師陣の著書やセミナーなどの案内も欲しいと思います。SNS などありましたらご紹介いただけると幸いです。ぜひ、引き続きよろしく願いいたします。
- オンライン授業の時間が足りず駆け足になった講義が多かったので、もう少しオンライン参加型研修の時間があればよかったと思いました。
- 手元に資料があればもっと良かったと思います。
- 課題はかなりボリュームのあるものでしたが、やり通せて満足です。講義も大変ためになる内容でした。今後もこのような研修の機会が継続的にあればぜひ参加したいと思っております。今後、講義だけでも継続してくださるとうれしいです。
- 大変内容の濃い研修でした。
- お世話になりました。ありがとうございました。

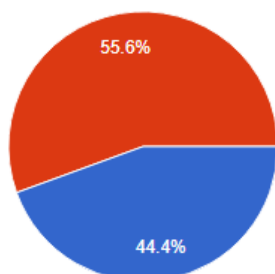
5-4-3. 研修記録

各科目の連動性や効率的な学習を目指して、より良い研修作りのために活用するため、オンライン参加型研修／自己研修担当講師に対して研修記録の記入を求めた。受講者の受講状況の他、実施体制に関する意見や感想を記入できるものとした。

研修記録の項目及び回答は以下の通りである。

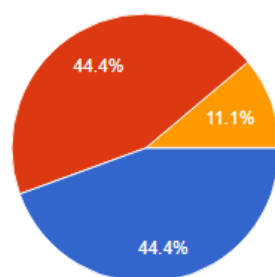
研修担当講師研修記録 集計結果 (回答9件)

オンライン研修はやりやすかったですか



- やりやすかった
- まあまあやりやすかった
- どちらでもない
- あまりやりやすくなかった
- やりにくかった

先行する e ラーニング研修との連動性はいかがでしたか



- うまく連動した
- まあまあ連動した
- どちらでもない
- あまり連動しなかった
- うまく連動しなかった

受講生の状況はどうでしたか



- 積極的だった
- まあまあ積極的だった
- どちらでもない
- あまり積極的ではなかった
- 積極的ではなかった

その他、ご意見・ご感想等おありでしたら、ぜひご記入ください

- 良かった点は、既にグループができていて、グループごとの話しあいがしていただける状態だった点です。事前に動画を見ていただき、課題についても十分話し合ってきてくださったので、短い時間でしたが、内容の濃いものができたと思います。一方で、4グループ全てに模擬授業をしていただいたことで時間のやりくりが難しく、説明がかなり駆け足になりました。時間配分については検討が必要だと思いました。

- オンラインでの実習は、授業参観者がいる場合、学生にグループワークをさせられない。この点を考慮に入れてオンライン実習を行う必要がある。
- 新しい試みで、やはり事前に準備をして受講者の視点から授業を組み立てていく必要性を感じた。
- コースデザイン演習の概要、演習 a から各種指導法、演習の b 以降の流れが関連付けられ、いい形になった。今後の展開が期待される。
- ①実習担当者の中にはオンラインで教えるのがはじめての方々がいたが、グループ内で協力し合い、スムーズに授業が行えていた。この研修が、オンライン授業を知るチャンスにもなったと思う。
②受講者は現職教師が多いため、この研修による負担が重くなりすぎないように配慮した。例えば、実習についてグループ内でやり取りするのは必要なことだが、他グループと内容調整などすることは求めないようにした。取り上げ項目の重複が生じた際は、実習直前に扱い方の軽重を各グループの担当者に伝えて調整した。受講者の忙しさは当然一人一人異なるが、対面に比べてオンラインは、ちょっとした個人の情報の収集が難しいところだと感じた。
- ゲストスピーカーのお話が、受講生の興味を引くものだったので、質問も出た。eラーニング研修の内容とも連動し、研修最終日にいい復習ができたと思う。
- コースデザインの eラーニング教材のみならず、参加型研修の概論、指導法との関連性も重視し、繋がりのある研修になったと思う。
- この科目で扱う内容がいささか多かった。

6. 事業全体の成果の評価

就労者に対する日本語教師【初任】研修事業評価委員会（以下、事業評価委員会）を開催し、本事業で実施された研修内容を評価した。

研修事業評価委員会

・2022年3月9日

6-1. 事業評価委員会 実施報告

本事業について、研修受講者と担当講師の双方から得たアンケート結果等を評価ツールとして用いて成果の評価を行った。また、今後普及を予定している研修カリキュラム、教材等の効果的な修正に繋がるよう今後の課題、改善点の取りまとめを行った。

研修受講者、担当講師からのアンケート結果も加味して本研修を総括し、今後の課題を挙げる。

6-2. 研修のねらいの達成に関する評価

本研修では以下4つの狙いを挙げた。

- 1) 現職者がより受講しやすい研修
- 2) eラーニング教材の特性を十全に活かした研修
- 3) 主体的・協働的に学ぶ研修
- 4) コースデザインから授業実践とその振り返りまでを学び、今後の成長に繋げる研修

以下、それぞれについての評価を記載する。

- 1) 現職者がより受講しやすい研修

受講生からの声に、「遠く離れたところに住む参加者同士がインターネットを駆使して知恵を出し合い、1つの課題を仕上げる、ということはコロナ禍の世界で出来るようになった数少ないよかったことなのではないだろうか。完全オンライン研修だからこそ出来たことであり以前では考えられないことである」「コロナ前であれば、恐らく地元では聞くことができないであろう講師の方々のお話が聞けて、非常に貴重な機会を頂けたことに感謝している。講師陣が持つ知識量や経験をベースにした考察も、私にとっては本で読むことだけでは知りえないことばかりだった」といった感想があるように、新型コロナウイルス感染症の影響下で、移動や集会への注意喚起がな

される中、安心して、継続的に受講できる環境を提供し、国内外を問わず、様々な地域に暮らす現職者の方々が受講しやすい研修とするという狙いは達成されたものと考えらる。

2) eラーニング教材の特性を十全に活かした研修

外国人就労者の就労現場が極めて多様である中、実際の就労者や外国人材を雇用した経験者、人材紹介会社の関係者等のゲストスピーカーへのインタビューをeラーニングの動画教材に盛り込み、日本企業文化、外国人社員と日本人社員との意思疎通の実態、職場トラブルへの対応等の現実的ケーススタディを語ってもらい、内容を出来るだけ豊かなものにするよう努めた。また、日本語教育機関におけるビジネス日本語の授業を動画収録したものも収め、実習の参考に供し、実践的な教材を提供すべく配慮した。受講生からも「大変勉強になりました」「とても練られた内容で、とてもわかりやすかった」「eラーニングの豊富なコンテンツにより新たな知見を効率的に得られた……講義のテーマは課題の内容ともリンクしており、課題を進める中で生じた疑問を解決する手段として活用するほか、就労者の日本語教育に関する幅広い知識を、相互に関連付けてインプットすることができた。また、理解度に応じて何度も聞き直すことでより内容に対する理解も深まった」「実際に各種の組織で日本語教育に携わっている人たちのインタビューが聞けた。現場での困難さ・問題点・注意すべき点が認識できた」「実際に外国人就労者と共に仕事をしている皆さんのお話からも現場の実際がよく理解できてよかった。また、外国人就労者の皆さんのインタビューからも就労者側からの見方がわかり大変伝わるものがあった参考になった」といった感想があった他、「カリキュラム前半の主に制度説明の部分。ここは何度も繰り返し見たり、聞き逃したものを再度聞いたりでもむしろeラーニングの方が向いている」といった声もあり、当初の狙いは達成されたと考えられるが、「職場コミュニケーションにおける言語間対照」、「職場におけるコミュニケーションと日本語教育」、「就労者の異文化受容・適応」、「学習動機と就労現場における学習者心理」、「外国人材とメンタルヘルスケア」、「就労者のための日本語教材・教具のリソース」といった科目については、オンライン参加型研修での補完を望む声もあり、今後の検討課題としたい。

3) 主体的・協働的に学ぶ研修

本研修では33単位時間のeラーニング科目を設け、専門家による各科目の動画教材による講義を受講し、各科目の確認テストを受けることで、受講者が主体的且つ自律的に受講を継続できる研修とした。

受講生からは、「学習者自身の「自律学習」を研修の中でも強く言われていたが、まさに自分がその立場に置かれたときに働きながら学習することの難しさを、身

をもって体験できた。あと LMS で進捗がわかったからこそ、最後まで頑張れたというもある。事務局のみなさんの対応も丁寧でかつとても親切だった。ツールとモチベーションの維持の工夫を様々な角度からしていただいたことで完走できた」といった声があり、主体的且つ自律的に受講を継続できる研修に繋がったようである。

しかしその一方、eラーニングの解説音声に自動音声を採用した科目があったことから、「不自然なロボットのような話し方はわかりにくい」「お顔とご自分の声で講義をされていた先生方は、講義内容も印象に残っている気がする」という声が散見された。

5 単位時間の自己研修を伴う 22 単位時間のオンライン参加型研修では、個人やグループ単位で課される課題について、他の受講生と協働して取り組むグループワークが組み込まれており、対面で接することがなくとも、他の受講生と協働的に学ぶ機会が多く設けられており、教育現場ではチームティーチングで指導に当たることが多い日本語教師として、連携、協力しようとする態度を育むことも意識した。

これについては、「大変多くの学びを得ることができました」「グループでひとまとまりのある作業ができてよかったです。メンバーの皆さんからいろいろな意見が聞けて、とても勉強になりました」「様々な ICT ツールを複合的に使用することで、厳しい条件下でも課題を達成できることが証明できた」といった声があった一方、「最初に交流会を開いてくださった意図が後になってわかったのだが、受講者どうしの共同作業は、かなり参加者のやる気とグループの中のリーダーシップを取る人の存在で満足度が変わってくると感じた」「課題はオンラインで行う以上、制約があるのは仕方ないと思いますが、グループでの作業がしにくい内容でした。分担をするのが難しかったです」という声もあった。グループ分けに当たっては、受講生の経験や年齢等に配慮して決定したのではあるが、実際には諸事情で、途中グループワークを外れる受講生が出たり、作業をする時間の都合がつけにくい等の差が出たりしてしまい、オンラインで完結する中でのメンバー分けについては今後の課題を残した。

また、今回は著作権を懸念し、eラーニングの画面上のスライドやオンライン参加型研修での講師の画面上のスライドはその場限りとし、資料配布は行わなかったが、これについては「資料の配布をしていただきかった」「資料のダウンロードが出来たらよりわかりやすかった」「データが難しければ、冊子の形でもテキストがあればいい」という率直な声が多かった。今後の課題である。

- 4) コースデザインから授業実践とその振り返りまでを学び、今後の成長に繋げる研修
外国人就労者を指導する現場では、少人数の多様な就労者を対象に小規模のグ

ループ指導や個別指導を展開するケースが多く、日本語教師自身が学習者のニーズやレディネス分析を行い、コースデザイン、カリキュラムデザインをした上で授業実践するケースが少なくない。そこで本研修では、eラーニングとオンライン参加型研修で外国人就労者の多様性とコースデザインの概要、各種指導法について学んだ上で、現実の外国人就労者を対象にニーズとレディネスの分析を行い、コースデザイン演習を行った上で実際にオンラインでの授業実践を行って、その後の振り返りに繋げるという一連の活動を盛り込み、今後の成長に繋げる実践的研修とした。

この点について受講生からは、「コースデザインを実際に作成した経験」が有意義であったという感想が寄せられ、「実際の就労者二人を対象としての演習は、就労者に教えることの実体験ができ、とても興味深く貴重な経験であった。二人のインタビュー動画やメール文面のみで、ニーズ・レディネス分析、目標設定、カリキュラム、評価方法までを考えるというのは初めての経験であり、非常に難しい課題ではあった。しかし、eラーニングから得た知識にグループ内それぞれのメンバーの経験値からの意見を加えた共同作業により、「Can-do」を重視し意識したある程度のコースデザインをすることができた」「日本語学校に勤務している中での業務は与えられたカリキュラムに沿って授業を進めていくことなので、養成講座の時に学んだはずのニーズ、レディネス調査やコースデザインのことは聞いたことがある、という程度の知識であった。だから、実際に学習者の会話場面や作文、その上司の方の要望を見せていただき、そこからニーズ・レディネス調査をし、課題をピックアップし、コースデザインを組み立て、それを教案に落とし込んで授業準備を整え、そして実際の模擬授業、フィードバックまでの一連の流れは、経験できてよかったと心底感じる」といった声があり、今後に繋がる実践的研修が提供できたといえる。

6-3. 研修内容に関する評価

本研修全体については、受講生から「よかった」(93%)、「まあまあよかった」(7%)という評価がなされており、「大変有意義且つ充実した研修」「受講者が研修を進めやすいように、理解しやすいように eラーニングとオンライン参加型研修が構成されていて……とても自身の今後のためになる研修」「大袈裟かも知れませんが、日本語教師として新たなステージに連れて行ってもらえた」「研修の冒頭で「3年以上の準備期間を経て満を持して開催した研修」と仰っていたが、カリキュラム、動画の内容、模擬授業、全てにおいて、非常に質の高い研修」「今後講義だけでも継続してくださるとうれしい」といった声があった。

本研修の科目は、

- ①動画を視聴する eラーニングのみで完結する科目

- ②オンラインによる同時双方向の対面研修のみで完結する科目
- ③eラーニングと連動してオンラインによる同時双方向の対面研修が開講される科目
- ④eラーニングとオンラインによる同時双方向の対面研修に加えて、自己研修課題が課される科目

の4つのタイプで構成されているが、eラーニング教材の作成やオンライン参加型研修を担当する講師とのコミュニケーションを密に取り、本研修の全体像とその狙い、各科目の位置付けについては事細かく擦り合わせを行い、教材の作成、研修の実施に繋げるよう心掛けた。

特に、eラーニング教材と連動するオンライン参加型研修についてはその連動性について特に留意し、eラーニング教材で事前に習得した内容の繰り返しにならないよう、反転授業としての発展性を意識したが、その点について受講生側からは、オンライン参加型研修の講義のみで十分に学べた科目があるかという問いに全員が「いいえ」と回答しており、講師側も先行するeラーニング科目とオンライン参加型研修の連動性について、程度の差はあるものの89%が「連動した」と回答していた。講師側からは受講生の積極的受講姿勢についての指摘も多く、想定した展開となったことが確認された。

受講生からは、eラーニングのみの科目について、オンライン参加型研修でも講義を受けたい科目として「職場コミュニケーションにおける言語間対照」、「職場におけるコミュニケーションと日本語教育」、「就労者の異文化受容・適応」、「学習動機と就労現場における学習者心理」、「外国人材とメンタルヘルスケア」、「就労者のための日本語教材・教具のリソース」が挙がっており、今後の研修実施の際の課題となった。

6-4. 受講生の変容に関する評価

本研修では、日本語教師として初任の者、或いは、日本語教師としては相応の経験を有しつつも就労者を指導する日本語教師としては初任の者を対象として、就労者への日本語教育の前提となる知識、実践的技能、態度について、60単位時間という限られた時間の研修を通して獲得することを目指すというよりも、協働的活動も通して理解を深め、将来的な獲得に繋がる基本姿勢の形成を図ることを目指したが、研修開始時と修了時に「セルフチェックシート」の記入を求めている。

これは『日本語教育人材の養成・研修の在り方について（報告）』（平成31年3月4日文化審議会国語分科会）の「就労者に対する日本語教師【初任】に求められる資質・能力」の中の知識、技能、態度について、まず研修開始時に受講生の自身に対する認識を確認し、問題意識を持って研修に臨み、研修終了時に改めて自身に対する認識を確認し、ほぼ4カ月の研修を通してどのような変容があったかを可視化して、更なる成長に繋げるという狙いで行なったものである。

具体的には、知識7項目、技能6項目、態度7項目の計20項目について、「よくあてはまる」から「ほとんどあてはまらない」の5段階で回答するものである。

それによると、受講生は全ての項目について研修開始時より段階が上がった、つまりプラス方向に変容したと回答している。あくまで自己評価ではあるが、これが今後の更なる成長に繋がることを願う。

6-5. 今後の課題

これまでの研修総括においても触れているが、本研修では以下のような課題が明らかとなった。

- 1) 全体で 60 時間という制約はあるが、e ラーニング科目の中で、職場コミュニケーションにおける言語間対照」、「職場におけるコミュニケーションと日本語教育」、「就労者の異文化受容・適応」、「学習動機と就労現場における学習者心理」、「外国人材とメンタルヘルスケア」、「就労者のための日本語教材・教具のリソース」についてはオンライン参加型研修を加えてほしいという要望があり、構成、時間配分について検討すること。
- 2) e ラーニング科目について、教材化の効率を優先させ、一部科目で合成音声を使用した。可能な限り講師の声で収録すること。
- 3) オンライン完結の中での受講生同士のグループワークの組み込みの際に、メンバー構成についてよりきめ細かく対応すること。
- 4) e ラーニング教材やオンライン参加型研修のスライド画面をダウンロードできるようにする等、研修資料を提供できるようにすること。